

# 平成27年度 事業報告書

学校法人 目白学園



## 目 次

|     |                                     |    |
|-----|-------------------------------------|----|
| I   | 法人の概要                               | 1  |
| 1   | 建学の精神                               | 1  |
| 2   | 法人の沿革                               | 1  |
| 3   | 組織図                                 | 3  |
| 4   | 設置している学校、研究科・学部、専攻・学科               | 4  |
| 5   | 各学校・学部・学科等の入学定員・入学者数・在籍者数・卒業者数の状況   | 5  |
| 6   | 役員                                  | 6  |
| 7   | 教職員の概要                              | 7  |
| II  | 事業の概要                               | 8  |
| 1   | 第3次中期計画の着実な実施について                   | 8  |
| (1) | 第3次中期計画期間中の具体的な年度計画の策定              | 8  |
| (2) | 平成27年度計画の着実な実施                      | 8  |
| 2   | 円滑な学園運営の実施                          | 8  |
| (1) | 組織的な学園運営体制（経営企画本部主導）による円滑な学園運営      | 8  |
| (2) | 事務組織改革の内容                           | 8  |
| (3) | 内部監査の強化及び監査結果に基づく業務改善               | 9  |
| 3   | 学生の修学活動に対する支援強化（学修環境の整備等）           | 10 |
| (1) | 奨学金制度による経済的支援                       | 10 |
| (2) | 障がい等学生の支援体制                         | 10 |
| (3) | ボランティア活動支援                          | 10 |
| (4) | 課外活動の支援                             | 10 |
| (5) | グループ学習環境の整備【岩槻キャンパス】                | 10 |
| (6) | その他                                 | 11 |
| 4   | 学部教育の整備充実                           | 11 |
| (1) | 初年次教育「ベーシックセミナー」の更なる改善について【新宿キャンパス】 | 11 |
| (2) | 新たな教養教育の構築について【新宿キャンパス】             | 11 |
| (3) | 学修支援の充実について                         | 11 |
| (4) | カリキュラム改正について【新宿キャンパス】               | 12 |
| (5) | 教職・国家試験等資格取得について【新宿キャンパス・岩槻キャンパス】   | 12 |
| 5   | 大学院教育の整備充実                          | 14 |
| (1) | 全研究科共通                              | 14 |
| (2) | 国際交流研究科                             | 14 |
| (3) | 心理学研究科                              | 15 |
| (4) | 経営学研究科                              | 15 |
| (5) | 言語文化研究科                             | 15 |
| (6) | 生涯福祉研究科                             | 15 |
| (7) | 看護学研究科                              | 15 |
| (8) | リハビリテーション学研究科                       | 16 |
| 6   | 短期大学教育の整備充実                         | 16 |
| (1) | 授業方法の改善による能動的学習の促進                  | 16 |
| (2) | 改正カリキュラムの実施と準備                      | 16 |
| (3) | 学習成績の評価の適正化                         | 16 |
| (4) | 就職支援の強化                             | 17 |
| (5) | 検定取得の促進                             | 17 |
| (6) | スタディアブロード(海外留学)の実施                  | 18 |
| 7   | 就職活動支援の強化について                       | 18 |
| (1) | 新宿キャンパス                             | 18 |
| (2) | 岩槻キャンパス                             | 19 |
| 8   | 教員の研究活動に対する支援の強化について                | 20 |

|                                     |    |
|-------------------------------------|----|
| (1) 科学研究費助成事業（科研費）の獲得の推進 .....      | 20 |
| (2) 学術研究推進のための学内特別助成の実施 .....       | 20 |
| (3) 地域連携・産学連携・地域貢献等の推進 .....        | 20 |
| <b>9 入学生の安定的確保</b> .....            | 21 |
| (1) 大学院 .....                       | 22 |
| (2) 大学 .....                        | 22 |
| (3) 短期大学部 .....                     | 22 |
| <b>10 中学校・高等学校改革の推進</b> .....       | 23 |
| (1) 新6年一貫教育の教育計画の作成 .....           | 23 |
| (2) 学習指導部の設置 .....                  | 23 |
| (3) 教科指導力の向上 .....                  | 23 |
| (4) 進路指導の充実 .....                   | 23 |
| (5) SEC 高校課程の開始 .....               | 24 |
| (6) 広報・生徒募集の強化 .....                | 24 |
| <b>11 危機管理体制の整備充実</b> .....         | 24 |
| (1) 各種訓練（避難訓練・防災訓練）の実施について .....    | 24 |
| (2) 災害緊急時の対応整備 .....                | 24 |
| (3) 備蓄品の整備 .....                    | 24 |
| <b>12 施設の整備年次計画の策定及び計画的整備</b> ..... | 24 |
| (1) キャンパス環境の整備計画 .....              | 25 |
| (2) 施設設備の充実・改善計画 .....              | 25 |
| <b>13 卒業生との連携強化</b> .....           | 25 |
| (1) 同窓会の連携強化 .....                  | 25 |
| <b>III 財務の概要</b> .....              | 26 |
| <b>1 資金収支計算書</b> .....              | 26 |
| <b>2 事業活動収支計算書</b> .....            | 27 |
| <b>3 貸借対照表</b> .....                | 28 |

# I 法人の概要

## 1 建学の精神

学校法人目白学園（以下「本学園」という。）の設置する各学校は、いずれも同じ基本理念によって支えられているが、学園創立者、佐藤重遠が掲げた建学の精神『主・師・親』がこれに当たる。

『主・師・親』は、日蓮の代表的著作である「開目抄」に記されているが、この書物の真意は「目を開くこと」、すなわち「迷妄を取り除いて真理に目覚めること」である。かねてから「開目抄」に感銘していた佐藤重遠は、学校教育の目指すところも、まさにこの開目ということであり、自身の学校創立時の理想を最も適切に伝える言葉として、その冒頭に記されている『主・師・親』を選び、これをもって本学園の建学の精神とした。

『主・師・親』は深遠な意味を含んだ言葉であるが、本学園では、次の三点を特に重視し、人間形成の営みを続けている。

第一に、良識ある日本人として国を愛し、国家・社会の誠実な成員としての責任感と連帯意識を養い、公共奉仕の念を培い、やがて国際社会に生きる日本の力強い担い手に成長すること。

第二に、自らを真理に向けて導いてくれる人に対して敬愛の念を持って接し、常に謙虚にものごとを学ぶ態度を養うこと。

第三に、人が互いに慈しみ育む場である家庭を大切にし、家族愛、人間愛の尊さを理解し実践すること。

この基本理念を日常の教育活動に生かし、本学園がここで学ぶ学生・生徒に修得してほしいと願っている「人としての基本的資質」は、次のとおりである。

1. 国家・社会への献身的態度
2. 真理探究の熱意
3. 人間尊重の精神

本学園は、この基本理念に共鳴する教職員及び学生・生徒による精神共同体である。

## 2 法人の沿革

|               |  |
|---------------|--|
| 大正 12 年(1923) | 佐藤重遠・フユ夫妻により東京都新宿区の現在地に研心学園を創設<br>初代理事長に佐藤重遠就任 |
| 昭和 4 年(1929)  | 財団法人目白学園設立 目白商業学校を新設 佐藤重遠が理事長に就任               |
| 昭和 9 年(1934)  | 佐藤フユ、第二代理事長に就任                                 |
| 昭和 19 年(1944) | 目白女子商業学校を新設                                    |
| 昭和 23 年(1948) | 国の学制改革により目白女子商業学校は目白学園高等学校と目白学園中学校<br>に改組      |
| 昭和 26 年(1951) | 財団法人目白学園を学校法人目白学園に組織変更                         |
| 昭和 30 年(1955) | 目白学園遺跡（落合遺跡）第一次発掘調査完了                          |
| 昭和 31 年(1956) | 佐藤重遠、第三代理事長に就任                                 |
| 昭和 34 年(1959) | 目白学園幼稚園を新設                                     |
| 昭和 38 年(1963) | 目白学園女子短期大学を新設し、英語英文科を設置                        |
| 昭和 39 年(1964) | 床次徳二、第四代理事長に就任 短期大学に国語国文科、生活科学科を増設             |
| 昭和 42 年(1967) | 女子教育研究所を設置                                     |
| 昭和 50 年(1975) | 目白学園遺跡（落合遺跡）第二次発掘調査完了                          |
| 昭和 55 年(1980) | 田邊教行、第五代理事長に就任                                 |
| 昭和 57 年(1982) | 目白学園遺跡（落合遺跡）第三次発掘調査完了                          |
| 昭和 58 年(1983) | 創立 60 周年式典を挙げる                                 |
| 昭和 59 年(1984) | 佐藤弘毅、第六代理事長に就任                                 |
| 平成 6 年(1994)  | 目白大学を新設し、人文学部地域文化学科、言語文化学科を設置                  |
| 平成 9 年(1997)  | 目白大学に留学生別科を新設                                  |

- 平成 11 年(1999) 目白大学大学院を新設し、国際交流研究科国際交流専攻（修士課程）、言語文化交流専攻（修士課程）を設置
- 平成 12 年(2000) 目白学園幼稚園を廃止  
目白大学人間社会学部を増設し、心理カウンセリング学科、メディア表現学科、社会情報学科を設置  
心理カウンセリングセンターを設置  
目白学園女子短期大学を「目白大学短期大学部」に名称変更し、英語英文科及び国語国文科を言語表現学科に改組  
目白大学エクステンションセンターを設置
- 平成 13 年(2001) 目白大学人文学部に現代社会学部を増設
- 平成 14 年(2002) 目白大学に経営学部を増設し、経営学科を設置  
目白大学大学院に心理学研究科を増設し、現代社会心理専攻（修士課程）、臨床心理学専攻（修士課程）を設置  
目白大学経営研究所を設置
- 平成 15 年(2003) 目白大学短期大学部に子ども学科を増設
- 平成 16 年(2004) 目白大学大学院に心理学研究科心理学専攻（博士後期課程）を新設  
目白大学大学院に経営学研究科を増設し、経営学専攻（修士課程）を設置  
目白大学人間社会学部に人間福祉学科を増設
- 平成 17 年(2005) 目白大学に外国語学部を増設し、英米語学科、アジア語学科（中国語専攻・韓国語専攻・日本語教育専攻）を設置  
目白大学に保健医療学部を増設し、理学療法学科、作業療法学科を設置
- 平成 18 年(2006) 目白大学人間社会学部に地域社会学科を増設  
目白大学保健医療部に言語聴覚学科を増設  
目白大学に看護学部を増設し、看護学科を設置  
目白学園女子教育研究所を目白大学教育研究所に改組
- 平成 19 年(2007) 目白大学人間社会学部を改組再編し、人間学部及び社会学部を設置  
目白大学人間学部子ども学科を増設  
目白大学短期大学部生活科学科製菓コースを改組拡充し、製菓学科を設置  
目白大学大学院に生涯福祉研究科を増設し、生涯福祉専攻（修士課程）を設置
- 平成 20 年(2008) 目白大学大学院国際交流研究科言語文化交流専攻を改組拡充し、言語文化研究科英語・英語教育専攻（修士課程）、日本語・日本語教育専攻（修士課程）、中国・韓国言語文化専攻（修士課程）を設置  
目白大学大学院心理学研究科現代社会心理専攻（修士課程）を現代心理学専攻に名称変更  
目白大学外国語学部アジア語学科を拡充改組し、中国語学科、韓国語学科、日本語学科を設置  
目白大学クリニック＜耳鼻咽喉科、リハビリテーション科（言語聴覚療法）＞を設置
- 平成 21 年(2009) 目白学園中学校・高等学校を「目白研心中学校・高等学校」に名称変更、男女共学制を導入  
目白大学人間学部に児童教育学科を増設  
目白大学大学院に経営学研究科経営学専攻（博士後期課程）を増設  
目白大学大学院に看護学研究科を増設し、看護学専攻（修士課程）を設置
- 平成 22 年(2010) 目白大学短期大学部にビジネス社会学科を増設
- 平成 23 年(2011) 目白大学メディカルスタッフ研修センターを設置  
逸見博昌、第七代理事長に就任
- 平成 24 年(2012) 目白大学大学院にリハビリテーション学研究科を増設し、リハビリテーション学専攻（修士課程）を設置  
目白大学外国語学部日本語学科を「日本語・日本語教育学科」に名称変更
- 平成 25 年(2013) 目白大学クリニックを目白大学耳科学研究所クリニックに名称変更
- 平成 27 年(2015) 尾崎春樹、第八代理事長に就任

### 3 組織図

平成27年4月1日現在



#### 4 設置している学校、研究科・学部、専攻・学科

平成27年4月1日

| 区分       | 研究科・学部名       | 専攻・学科名           | 開設年度  | 入学定員  | 編入学定員 | 収容定員  |       |
|----------|---------------|------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 大学院      | 国際交流研究科       | 国際交流専攻(修士)       | H11   | 20    | —     | 40    |       |
|          |               | 小計               | —     | 20    | —     | 40    |       |
|          | 心理学研究科        | 心理学専攻(博士後期)      | H16   | 3     | —     | 9     |       |
|          |               | 現代心理学専攻(修士)      | H14   | 20    | —     | 40    |       |
|          |               | 臨床心理学専攻(修士)      | H14   | 30    | —     | 60    |       |
|          |               | 小計               | —     | 53    | —     | 109   |       |
|          | 経営学研究科        | 経営学専攻(博士後期)      | H21   | 3     | —     | 9     |       |
|          |               | 経営学専攻(修士)        | H16   | 20    | —     | 40    |       |
|          |               | 小計               | —     | 23    | —     | 49    |       |
|          | 生涯福祉研究科       | 生涯福祉専攻(修士)       | H19   | 20    | —     | 40    |       |
|          |               | 小計               | —     | 20    | —     | 40    |       |
|          | 言語文化研究科       | 英語・英語教育専攻(修士)    | H20   | 10    | —     | 20    |       |
|          |               | 日本語・日本語教育専攻(修士)  | H20   | 10    | —     | 20    |       |
|          |               | 中国・韓国言語文化専攻(修士)  | H20   | 10    | —     | 20    |       |
|          |               | 小計               | —     | 30    | —     | 60    |       |
|          | 看護学研究科        | 看護学専攻(修士)        | H21   | 15    | —     | 30    |       |
|          |               | 小計               | —     | 15    | —     | 30    |       |
|          | リハビリテーション学研究科 | リハビリテーション学専攻(修士) | H24   | 15    | —     | 30    |       |
|          |               | 小計               | —     | 15    | —     | 30    |       |
| 研究科合計    |               |                  | —     | 176   | —     | 358   |       |
| 大学       | 人間学部          | 心理カウンセリング学科      | H12   | 120   | 10    | 500   |       |
|          |               | 人間福祉学科           | H16   | 120   | 10    | 500   |       |
|          |               | 子ども学科            | H19   | 140   | 10    | 580   |       |
|          |               | 児童教育学科           | H21   | 50    | —     | 200   |       |
|          |               | 小計               | —     | 430   | 30    | 1,780 |       |
|          | 社会学部          | 社会情報学科           | H12   | 120   | 5     | 490   |       |
|          |               | メディア表現学科         | H12   | 120   | 5     | 490   |       |
|          |               | 地域社会学科           | H18   | 80    | 5     | 330   |       |
|          |               | 小計               | —     | 320   | 15    | 1,310 |       |
|          | 経営学部          | 経営学科             | H14   | 120   | 5     | 490   |       |
|          |               | 小計               | —     | 120   | 5     | 490   |       |
|          | 外国語学部         | 英米語学科            | H17   | 80    | 5     | 330   |       |
|          |               | 中国語学科            | H20   | 40    | —     | 160   |       |
|          |               | 韓国語学科            | H20   | 60    | —     | 240   |       |
|          |               | 日本語・日本語教育学科      | H20   | 40    | —     | 160   |       |
|          |               | 小計               | —     | 220   | 5     | 890   |       |
|          | 保健医療学部        | 理学療法学科           | H17   | 80    | —     | 320   |       |
|          |               | 作業療法学科           | H17   | 60    | —     | 240   |       |
|          |               | 言語聴覚学科           | H18   | 40    | —     | 160   |       |
|          |               | 小計               | —     | 180   | —     | 720   |       |
|          | 看護学部          | 看護学科             | H18   | 100   | —     | 400   |       |
|          |               | 小計               | —     | 100   | —     | 400   |       |
|          | 学部合計          |                  |       | —     | 1,370 | 55    | 5,590 |
|          | 留学生別科         | 日本語専修課程          | H9    | 120   | —     | 120   |       |
|          |               | 日本・アジア専修課程       | H15   | 20    | —     | 20    |       |
|          |               | 別科合計             | —     | 140   | —     | 140   |       |
|          | 短期大学部         | —                | 生活科学科 | S39   | 80    | —     | 160   |
| 製菓学科     |               |                  | H19   | 80    | —     | 160   |       |
| ビジネス社会学科 |               |                  | H22   | 60    | —     | 120   |       |
| 短期大学部合計  |               |                  | —     | 220   | —     | 440   |       |
| 高等学校     | —             | —                | S23   | 260   | —     | 740   |       |
| 中学校      | —             | —                | S23   | 100   | —     | 340   |       |
| 中・高合計    |               |                  | —     | 360   | —     | 1,080 |       |
| 学園総計     |               |                  | —     | 2,266 | 55    | 7,608 |       |



## 5 各学校・学部・学科等の入学定員・入学者数・在籍者数・卒業生数の状況

入学者・在籍者は平成27年5月1日現在、卒業生数は平成28年3月31日現在

|               | 研究科・学部名          | 専攻・学科名          | 入学定員  | 平成27年度 |       |       |       |
|---------------|------------------|-----------------|-------|--------|-------|-------|-------|
|               |                  |                 |       | 入学者    | 編入学者  | 在籍者   | 卒業者   |
| 大学院           | 国際交流研究科          | 国際交流専攻(修士)      | 20    | 19     | —     | 43    | 21    |
|               |                  | 小計              | 20    | 19     | —     | 43    | 21    |
|               | 心理学研究科           | 心理学専攻(博士後期)     | 3     | 0      | —     | 6     | 1     |
|               |                  | 現代心理学専攻(修士)     | 20    | 12     | —     | 37    | 14    |
|               |                  | 臨床心理学専攻(修士)     | 30    | 9      | —     | 34    | 18    |
|               |                  | 小計              | 53    | 21     | —     | 77    | 33    |
|               | 経営学研究科           | 経営学専攻(博士後期)     | 3     | 1      | —     | 4     | 0     |
|               |                  | 経営学専攻(修士)       | 20    | 5      | —     | 16    | 8     |
|               |                  | 小計              | 23    | 6      | —     | 20    | 8     |
|               | 生涯福祉研究科          | 生涯福祉専攻(修士)      | 20    | 2      | —     | 13    | 3     |
|               |                  | 小計              | 20    | 2      | —     | 13    | 3     |
|               | 言語文化研究科          | 英語・英語教育専攻(修士)   | 10    | 1      | —     | 3     | 2     |
|               |                  | 日本語・日本語教育専攻(修士) | 10    | 14     | —     | 28    | 11    |
|               |                  | 中国・韓国言語文化専攻(修士) | 10    | 10     | —     | 16    | 3     |
|               |                  | 小計              | 30    | 25     | —     | 47    | 16    |
|               | 看護学研究科           | 看護学専攻(修士)       | 15    | 11     | —     | 24    | 8     |
| 小計            |                  | 15              | 11    | —      | 24    | 8     |       |
| リハビリテーション学研究科 | リハビリテーション学専攻(修士) | 15              | 7     | —      | 12    | 4     |       |
|               | 小計               | 15              | 7     | —      | 12    | 4     |       |
|               | 研究科合計            | 176             | 91    | —      | 236   | 93    |       |
| 大学            | 人間学部             | 心理カウンセリング学科     | 120   | 126    | 4     | 551   | 127   |
|               |                  | 人間福祉学科          | 120   | 93     | 4     | 404   | 99    |
|               |                  | 子ども学科           | 140   | 146    | 4     | 565   | 131   |
|               |                  | 児童教育学科          | 50    | 66     | 0     | 257   | 57    |
|               |                  | 小計              | 430   | 431    | 12    | 1,777 | 414   |
|               | 社会学部             | 社会情報学科          | 120   | 108    | 8     | 470   | 118   |
|               |                  | メディア表現学科        | 120   | 130    | 3     | 490   | 98    |
|               |                  | 地域社会学科          | 80    | 89     | 0     | 323   | 74    |
|               |                  | 小計              | 320   | 327    | 11    | 1,283 | 290   |
|               | 経営学部             | 経営学科            | 120   | 150    | 2     | 504   | 111   |
|               |                  | 小計              | 120   | 150    | 2     | 504   | 111   |
|               | 外国語学部            | 英米語学科           | 80    | 93     | 1     | 342   | 66    |
|               |                  | 中国語学科           | 40    | 16     | 0     | 90    | 30    |
|               |                  | 韓国語学科           | 60    | 74     | 0     | 300   | 78    |
|               |                  | 日本語・日本語教育学科     | 40    | 27     | 0     | 168   | 48    |
|               |                  | 小計              | 220   | 210    | 1     | 900   | 222   |
|               | 保健医療学部           | 理学療法学科          | 80    | 80     | —     | 390   | 79    |
|               |                  | 作業療法学科          | 60    | 60     | —     | 251   | 55    |
|               |                  | 言語聴覚学科          | 40    | 42     | —     | 172   | 25    |
|               |                  | 小計              | 180   | 182    | —     | 813   | 159   |
|               | 看護学部             | 看護学科            | 100   | 111    | —     | 441   | 106   |
|               |                  | 小計              | 100   | 111    | —     | 441   | 106   |
|               |                  | 学部合計            | 1,370 | 1,411  | 26    | 5,718 | 1,191 |
| 留学生別科         | 日本語専修課程          | 120             | 41    | —      | 76    | 38    |       |
|               | 日本・アジア専修課程       | 20              | —     | —      | —     | —     |       |
|               | 別科合計             | 140             | 41    | —      | 76    | 38    |       |
| 短期大学部         | 生活科学科            | 生活科学科           | 80    | 72     | —     | 153   | 61    |
|               |                  | 製菓学科            | 80    | 76     | —     | 138   | 60    |
|               |                  | ビジネス社会学科        | 60    | 70     | —     | 113   | 41    |
|               | 短期大学部合計          | 220             | 218   | —      | 404   | 162   |       |
| 高等学校          |                  | 260             | 254   | 0      | 705   | 205   |       |
| 中学校           |                  | 100             | 48    | 0      | 138   | 52    |       |
|               | 中・高合計            | 360             | 302   | 0      | 843   | 257   |       |
|               | 学園総計             | 2,266           | 2,063 | 26     | 7,277 | 1,741 |       |

## 6 役員

平成27年4月1日現在

| 理事・監事の区別    | 職名又は担当職務     | 氏名     | 就任年月日                    | 従前の職又は現職             |
|-------------|--------------|--------|--------------------------|----------------------|
| 理事<br>(常勤)  | 理事長          | 尾崎 春樹  | 平成27年1月1日<br>(平成26年7月1日) | 元学校法人目白学園専務理事)       |
| 理事<br>(常勤)  | 常務<br>(総務担当) | 田村 幸男  | 平成25年4月1日                | 元常務(財務担当)            |
| 理事<br>(常勤)  | 常務<br>(財務担当) | 宮田 弘   | 平成27年4月1日                | 元関西外国語大学理事           |
| 理事<br>(常勤)  |              | 佐藤 郡衛  | 平成26年4月1日                | 目白大学学長               |
| 理事<br>(常勤)  |              | 油谷 純子  | 平成26年4月1日                | 目白大学短期大学部学長          |
| 理事<br>(常勤)  |              | 松下 秀房  | 平成24年4月1日                | 目白研心中学校・高等学校校長       |
| 理事<br>(常勤)  |              | 新井 正一  | 平成27年4月1日                | 目白大学副学長              |
| 理事<br>(常勤)  |              | 中島 節夫  | 平成27年4月1日                | 目白大学事務局長             |
| 理事<br>(非常勤) |              | 小川 正人  | 平成27年4月1日                | 放送大学教授・東京大学名誉教授      |
| 理事<br>(非常勤) |              | 水上 治   | 平成27年4月1日                | 医師・健康増進クリニック院長       |
| 理事<br>(非常勤) |              | 山崎 隆   | 平成23年5月24日               | 弁護士<br>東京ひまわり法律事務所   |
| 監事<br>(非常勤) |              | 石村 英二郎 | 平成27年4月1日                | 元NHK理事(報道・国際・スポーツ担当) |
| 監事<br>(非常勤) |              | 平山 孔嗣  | 平成27年4月1日                | 公認会計士                |

(平成28年3月31日退任)

|            |  |       |           |         |
|------------|--|-------|-----------|---------|
| 理事<br>(常勤) |  | 新井 正一 | 平成27年4月1日 | 目白大学副学長 |
|------------|--|-------|-----------|---------|

## 7 教職員の概要

### ① 教員数

平成27年5月1日現在(人)

| 所属              | 男   |    |     | 女  |    |     | 合計  |     |          |     |
|-----------------|-----|----|-----|----|----|-----|-----|-----|----------|-----|
|                 | 専任  | 有期 | 非常勤 | 専任 | 有期 | 非常勤 | 専任  | 有期  | 専任<br>有期 | 非常勤 |
| 大学              | 0   | 0  | 0   | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0        | 0   |
| 国際交流研究科         | 0   | 0  | 4   | 0  | 0  | 1   | 0   | 0   | 0        | 5   |
| 心理学研究科          | 0   | 0  | 9   | 0  | 0  | 3   | 0   | 0   | 0        | 12  |
| 経営学研究科          | 0   | 0  | 2   | 0  | 0  | 1   | 0   | 0   | 0        | 3   |
| 生涯福祉研究科         | 0   | 0  | 4   | 0  | 0  | 3   | 0   | 0   | 0        | 7   |
| 言語文化研究科         | 0   | 0  | 3   | 0  | 0  | 2   | 0   | 0   | 0        | 5   |
| 看護学研究科          | 0   | 0  | 3   | 0  | 0  | 5   | 0   | 0   | 0        | 8   |
| リハビリテーション学研究科   | 0   | 0  | 2   | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0        | 2   |
| 人間学部            | 28  | 15 | 41  | 20 | 17 | 50  | 48  | 32  | 80       | 91  |
| 社会学部            | 26  | 6  | 28  | 9  | 8  | 11  | 35  | 14  | 49       | 39  |
| 経営学部            | 10  | 0  | 11  | 2  | 2  | 2   | 12  | 2   | 14       | 13  |
| 外国語学部           | 17  | 6  | 23  | 13 | 11 | 22  | 30  | 17  | 47       | 45  |
| 保健医療学部          | 27  | 9  | 32  | 13 | 4  | 15  | 40  | 13  | 53       | 47  |
| 看護学部            | 7   | 3  | 15  | 11 | 14 | 7   | 18  | 17  | 35       | 22  |
| メディカルスタッフ研修センター | 0   | 0  | 0   | 1  | 1  | 0   | 1   | 1   | 2        | 0   |
| 別科(日本語専修課程)     | 1   | 0  | 0   | 1  | 1  | 9   | 2   | 1   | 3        | 9   |
| 別科(日本語専修課程)     | 0   | 0  | 0   | 0  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0        | 0   |
| 短期大学部           | 5   | 1  | 19  | 7  | 16 | 32  | 12  | 17  | 29       | 51  |
| 中学・高等学校         | 22  | 4  | 15  | 18 | 9  | 18  | 40  | 13  | 53       | 33  |
| 合計              | 143 | 44 | 211 | 95 | 83 | 181 | 238 | 127 | 365      | 392 |
| 対前年度比増減         | 3   | ▲6 | ▲9  | 4  | ▲8 | ▲4  | 7   | ▲14 | ▲7       | 5   |

### ② 職員数

平成27年5月1日現在(人)

| 所属      | 男  |    |    |     | 女  |    |    |     | 合計  |    |          |    |     | 派遣 | 総合計 |
|---------|----|----|----|-----|----|----|----|-----|-----|----|----------|----|-----|----|-----|
|         | 専任 | 有期 | 嘱託 | パート | 専任 | 有期 | 嘱託 | パート | 専任  | 有期 | 専任<br>有期 | 嘱託 | パート |    |     |
| 法人      | 12 | 2  | 0  | 0   | 8  | 1  | 0  | 0   | 20  | 3  | 23       | 0  | 0   | 3  | 26  |
| 岩槻      | 9  | 0  | 0  | 0   | 14 | 1  | 0  | 11  | 23  | 1  | 24       | 0  | 11  | 3  | 38  |
| 新宿      | 30 | 1  | 1  | 2   | 22 | 2  | 1  | 23  | 52  | 3  | 55       | 2  | 25  | 11 | 93  |
| 埼玉病院    | 1  | 0  | 1  | 1   | 0  | 0  | 0  | 2   | 1   | 0  | 1        | 1  | 3   | 0  | 5   |
| 目白クリニック | 1  | 0  | 0  | 0   | 5  | 0  | 0  | 16  | 6   | 0  | 6        | 0  | 16  | 0  | 22  |
| 中・高     | 2  | 0  | 0  | 1   | 3  | 2  | 0  | 3   | 5   | 2  | 7        | 0  | 4   | 2  | 13  |
| 合計      | 55 | 3  | 2  | 4   | 52 | 6  | 1  | 55  | 107 | 9  | 116      | 3  | 59  | 19 | 197 |
| 対前年度比増減 | ▲1 | ▲2 | 0  | ▲1  | 0  | 3  | 0  | 6   | ▲1  | 1  | 0        | 0  | 5   | ▲1 | 4   |

### ③ 専任・有期・嘱託・派遣教職員 平成27年5月1日現在(人)

|         | 男   | 女   | 合計  | 対前年度比増減 |
|---------|-----|-----|-----|---------|
| 専任教職員   | 198 | 147 | 345 | 6       |
| 有期教職員   | 47  | 89  | 136 | ▲13     |
| 嘱託職員    | 2   | 1   | 3   | 0       |
| パート職員   | 4   | 55  | 59  | 5       |
| 小計      | 251 | 292 | 543 | ▲2      |
| 派遣職員    | 0   | 19  | 19  | ▲1      |
| 合計      | 251 | 311 | 562 | ▲3      |
| 対前年度比増減 | ▲7  | 4   | ▲3  |         |

※派遣⇒業務委託は含まない。  
 ※専任職員から理事は除外  
 ※非常勤相談員はパート扱いとする。

## Ⅱ 事業の概要

### 1 第3次中期計画の着実な実施について

#### (1) 第3次中期計画期間中の具体的な年度計画の策定

本学園においては、これまでに2回中期目標・中期計画を策定し、その具体的な計画の実現に努めてきたが、平成25年度に、第2次中期目標・計画期間を1年前倒しした上、平成26年度を初年度とし、以後5年間にわたって取り組む「第3次中期計画」を策定した。

「第3次中期計画」は、第1次・第2次中期計画等を踏まえつつ、当面、最も急がれる大学の学部や短期大学部の教育・研究・管理運営を主体として策定し取り組んでいるところであるが、大学院、研究所等の中期計画については、開始時期をずらして平成28年度から平成30年度までの3か年計画として平成27年度に策定した。また、中学校及び高等学校においては、平成24年度に新たな校長を迎えて、平成24年度から平成28年度までの5か年計画として「第3次中期目標」に取り組んでいるところである。

平成27年度は、大学、短期大学部及び法人本部においては「第3次中期計画」の2年目に当たり、中学校及び高等学校においては4年目に当たるが、それぞれにPDCAサイクルに基づき策定した具体的な年度計画を展開した。

#### (2) 平成27年度計画の着実な実施

第3次中期目標・中期計画に係る平成27年度計画は、前年度計画の評価結果も踏まえ、PDCAサイクルの円滑な実施の観点から、第3次中期目標・中期計画が着実に遂行されるよう計画を策定したものであるが、大学及び短期大学部に関しては、前年度と同様に、年度の前半と年間を通じた2回の評価（前期評価・通年評価）を行ない、前期評価は9月末時点までの実施状況について、通年評価は3月末時点で前期評価結果も踏まえ年度全般について、それぞれ評価を行なった。

また、法人本部及び高等学校・中学校も、大学及び短期大学部の作業工程に合わせて平成27年度計画の評価作業を行なった。

### 2 円滑な学園運営の実施

#### (1) 組織的な学園運営体制（経営企画本部主導）による円滑な学園運営

学校法人の運営に係る基本的な事項は、理事会において決定されるべきものであるが、日常的な職務の執行は、理事により行われているところである。そこで、本学園の経営及び本学園が設置する学校における教育研究活動等を円滑に行なうため、平成24年度から理事長を中心とした常勤理事、大学・短期大学部学長である理事等による「経営企画本部」を設置し、経営企画本部会議を開催して、諸問題の対応に当たっている。

これには、校長である理事も常時参画しているが、構成員が曖昧であることから、平成27年度からは、本学園組織管理規則を見直し、経営企画本部及び経営企画本部会議の位置付け、経営企画本部構成員及び経営企画本部会議参画者を明確に規定し、より円滑な学園運営を目指している。

また、経営企画本部会議の開催については、これまでは不定期（平成24・25年度は、年間各8回、平成26年度は、年間9回）であったが、平成27年度は8月を除いて月1回（年間11回）は定期的で開催した。

#### (2) 事務組織改革の内容

平成27年6月1日施行の事務組織改革の内容は以下のとおり。

##### ① 事務組織の単位及び名称の変更

事務組織の単位として、「部」、「グループ」及び「室」等が設置されていたが、「グループ」の名称は、組織における位置付けが外部から見ても、また、学生にとっても分かりづらい

ため、社会一般や学生に組織規模がより分かり易く、なじみのある「部」、及び「課」の呼称に改めた。

また、「室」の位置付けについては、「部」相当、「課」相当及び「係」相当が混在し、各々が不明確であったので、関係規則の整備時に、位置付けを明確に規定した。

#### ② 学長補佐体制の強化

学長が大学改革等に取り組む上で、新たな企画(プロジェクト)の実施を推進するために、学長を補佐する体制を強化するため、「学事部学事グループ」を拡充改組し、大学事務局に「部」に準ずる「大学企画室」を新設し、「大学企画室」に「庶務・企画課」及び「評価・企画課」の2課を新設した。

#### ③ 就職支援体制の強化

学生の就職支援体制の充実強化を図るため、「学生支援部キャリア支援グループ」を拡充改組し、大学事務局に「就職支援部」を新設し、「就職支援部」に「就職指導課」及び「キャリア支援課」の2課を新設した。

#### ④ 法人本部事務組織の統廃合

法人本部の4部1室(部相当)1グループ(課相当)体制について見直した結果、総務部及び人事部を新「総務部」に統廃合し、「総務部」に「総務課」及び「人事課」の2課を新設し、また、財務部及び管理部を新「財務部」に統廃合し、「財務部」に「財務課」及び「管理課」の2課を新設し、更に現行の「財務部情報システムグループ」から移行する「情報システム課」を含めて3課体制とした。

#### ⑤ その他

「育てて送り出す」ことを標榜する本学においては、学修成果の向上を目指す学生の支援の充実強化は、就職支援の強化以前の極めて重要な課題である。「学修支援部」の名称を「教務部」に改め、「教務課」、「資格支援課」及び現行の「学事部研究支援グループ」から再編する「研究支援課」の3課をもって構成し、学修支援、資格支援及び研究支援等の分野の充実を図った。

また、「学生支援部」の名称を「学生部」に改めるとともに、「学生課」及び「国際交流課」の2課をもって構成し、学生支援及び国際交流の分野の充実を図った。

更に、岩槻キャンパスの事務組織のうち、「庶務部」は、「庶務グループ」及び「入試グループ」の2グループをもって構成しているが、「庶務課」及び「入試課」に名称を改め、これまで事務局次長が直接所管していた「クリニック事務室」を新たに庶務部に移管した。

### (3) 内部監査の強化及び監査結果に基づく業務改善

平成27年度は、①金銭等管理、②時間外勤務管理、③経常費補助金、④科学研究費、⑤前年度指摘事項の改善状況確認(危機管理(防災)、給与事務、文書管理、各種契約)の5項目について、法人本部、大学(新宿(短期大学部含む)・岩槻キャンパス)及び高等学校・中学校を対象として、内部監査を実施した。

監査は、監査室員2名と学校法人目白学園内部監査規則(以下「内部監査規則」という。)に基づき任命された臨時監査室員16名の計18名により実施し、内部監査規則の主旨を踏まえて、適法性、合理性及び効率性の観点から、関係資料及び帳簿等の確認・照合、被監査部署の長及び担当者並びに学内外の関係者等への質疑・照会等を行なった。

なお、科学研究費は、平成26年改正の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」に基づき、財務情報に対するチェック、競争的資金等の管理体制の検証を行なう通常の監査に加えて、納品後の物品等の現物確認、出張の事実確認等の特別監査を実施した。

監査の結果、総じて規則・ルール等に沿って適正に処理されていたが、一部に決められた手順に則っていないもの、事務ミスしているもの等があり、改善状況確認項目についても課題が残るものが若干見られた。

監査結果については、監査室長は「内部監査報告書」にまとめて理事長に提出し、合せて、監事及び監査法人に結果を報告し、意見交換を行なった。

監査により明らかになった課題については、該当部署等にフィードバックして業務改善を促

すとともに、部長会等での監査結果の概要報告、学内ネットワーク掲示板への掲載等により、改善すべき課題の共有化を図った。

### 3 学生の修学活動に対する支援強化（学修環境の整備等）

#### (1) 奨学金制度による経済的支援

本学の全学生の40%が受給している日本学生支援機構（JASSO）奨学金の説明会、相談体制の充実を図るとともに、その他地方公共団体等の奨学金の情報提供を強化した。その結果、初めて東京都保育士修学資金（奨学金）に4名が採用される等の成果があった。

目白大学・目白大学短期大学部の保護者組織である教育後援桐光会奨学金について、平成28年1月開催の同会常任委員会において給付型である①生活支援奨学金、②一人暮らし学生支援奨学金、③遠距離通学学生支援奨学金を新設し、平成28年度からこれらの奨学金により、学生の経済的支援を行なうことができるようになった。

また、医療系の岩槻キャンパスにおいては、特に看護学科の学生に対して、独立行政法人国立病院機構や私立病院等独自の奨学金も少なくない。病院や地方自治体等からの奨学金の取扱いについては学科と密接に連絡を取り、学生が将来にわたり希望するキャリア構築ができるように案内、説明をした。

#### (2) 障がい等学生の支援体制

平成26年9月に設置された障がい等学生修学支援委員会に、引き続き、平成27年6月に新宿キャンパス学生部学生課に障がい等学生支援室を設置し、専門知識を有するコーディネータを配置し、岩槻キャンパスにおいてもこのコーディネータと密に連携して動いている。

支援室においては、支援必要とする学生・入学予定者等と個別に面談を行なう等、授業支援・大学生活のメニューを作成した。障害者差別解消法の平成28年4月施行を控え、同年3月に全教職員を対象とした「障がい等学生の修学支援の現状と課題」をテーマにした特別FD・SDを両キャンパスでそれぞれ実施した。

#### (3) ボランティア活動支援

平成26年度に引き続き、平成27年度も新宿社会福祉協議会の講師によるボランティア活動についての研修を2回実施した。この研修を受講した学生は、学園費用にてボランティア保険に加入することにより、長期休暇中のボランティア活動を行ないやすくする環境を整えた。

また、大学に入学予定の聴覚に障がいを持つ学生の授業支援のため、ノートテイク研修会を春に3回実施し、延べ約50名の学生が参加したが、このことにより春・秋学期の授業にてノートテイクをほぼ全ての授業で実施する体制を整えることができた。

新宿キャンパスにおいては、5月に実施した災害救援ボランティア講座に8名の学生が参加し、岩槻キャンパスにおいては、9月に実施した同講座に25名の学生が参加した。

平成28年2月に開催された地元落合・中井を伝統産業であった染め物で街を埋め尽くす「第8回染の小道」に学生30名がボランティアとして参加した。

また、岩槻キャンパスでは平成27年度からボランティア保険の費用を学園費用で支援することにより、ボランティア活動を促進した。

#### (4) 課外活動の支援

学生の自主的・創造的活動を最大50万円まで経済的に支援するSPIS (Students Program Incentive Scholarship) チャレンジ制度を利用した5件の企画が認定された。これらの企画は、保育園での活動、障がい者支援、国際交流、地域活動等多岐にわたる活動が実施された。岩槻キャンパスでは採択が1件のみであったので、より多くの学生に制度を知ってもらうために、次年度に向けSPISチャレンジ制度自体の広報にも力を入れている。

#### (5) グループ学習環境の整備【岩槻キャンパス】

岩槻キャンパスにおいては、「コミュニティプラザ・Kirri」が平成27年8月にオープンし、学習環境が大幅に改善された。もともと国家試験に向けグループ学習するスペースが不足しているとの声が多かったが、学習スペースが11部屋ある「コミュニティプラザ・Kirri」

が開設されたことで、学生がグループ学習できる環境が整備された。オープン後は授業がある日は、ほぼ100%の稼働であり、今後は片寄りが無いようより多くの学生が使えるように使用方法の検討をすすめていく。

#### (6) その他

新宿キャンパスの大学食堂について、保温器等を新たに導入し、一部改善は行われたが、全面改装・厨房機器の更新は行われなかった。本件については引き続き重要課題として検討してゆく。岩槻キャンパスの大学会館は、食堂の照明の改善を行ない、学生が利用しやすいように明るくスペースとしてリニューアルした。

## 4 学部教育の整備充実

### (1) 初年次教育「ベーシックセミナー」の更なる改善について【新宿キャンパス】

初年次教育科目「ベーシックセミナー」は平成25年度以来3年目を迎え、授業内容の均質性の確保や教授法等、導入当初の諸課題を克服し、「高等教育への円滑な移行」という所期の目的について一定の成果をあげている。

現在、各学科とも学部生として身につけるべき汎用的な能力（ルール・マナー、生活習慣、学習計画の立て方、情報の収集と整理、コミュニケーションやプレゼンテーションの技術、論理的思考等）の涵養を中心に、専門教育への接続を前提に学科独自の要素を加味した形で実施している。更なる内容の充実等を目的とした平成27年度の取組み状況は以下のとおり。

#### ① 標準シラバスの活用

各学科とも可能な限り標準シラバスに準拠した「ベーシックセミナー」の実施に努め、授業内容の均質性確保等に努めた。

#### ② ワークシートの充実と活用

テキストの内容に則したワークシートを作成し、アクティブラーニングの実施等に活用した。

#### ③ 他の科目等との連携強化

一部学科ではキャリア形成科目（基礎教育科目）や学科専門科目との連携を図り、双方の授業内容の充実と専門教育への円滑な移行に努めた。

#### ④ テキストの部分改訂

学期末試験等における不正行為防止に関する内容を新たに盛り込んだ。

#### ⑤ 学科間における情報の共有化

授業内容の更なる改善及び充実を図るため、学期毎に「学科責任者会議」を開催し、取組状況、課題、成果等について情報交換を行なった。

### (2) 新たな教養教育の構築について【新宿キャンパス】

「教養教育検討委員会」において新たな教養教育の基本方針及びカリキュラム編成方針等について議論を重ね、平成27年7月に最終報告として「目白大学における教養教育の再構築に向けて—学生に学士力を獲得させるために—」を取りまとめた。

同報告は、現行カリキュラムの問題点、再構築のための視点、教養教育の定義、「総合科目」の新設、国語教育、外国語教育、初年次教育（ベーシックセミナー等）、キャリア教育、情報教育等の再編成等、広範な内容を包含しており、平成30年度に予定されている基礎教育課程の抜本改革の指針となるものである。

同報告に基づき「総合科目」について具体的な検討作業を行なうため、新たに「総合科目編成委員会」を平成27年10月に設置した。

### (3) 学修支援の充実について

#### 【新宿キャンパス】

#### ① 学習支援センターの活用

平成27年度、学生の学習支援を目的としたプログラムを以下のとおり実施した。

#### ・「数理リカレント学習」

児童教育学科教授が希望者を対象に、リメディアル教育の一環として「数理の基礎」分野を指導した。（毎週月曜6限、火曜5限）

・「個別学習相談」

T Aを配置し、履修相談とパソコンの操作指導等を実施した。(毎週水曜3～6限、木曜3～4限)

② 基礎力調査の実施

平成27年4月に短期大学部を含む全学科の1年次生及び社会学部3学科の2年次生を対象に同調査(基礎学力試験及び意識調査)を実施した。

実施結果については5月に学科単位(一部合同)でフォローアップセミナーを開催し、学生へのフィードバックを行なった。あわせて、同調査の分析結果を今後の教学改革等に活かすべく、7月に学部長等会議で報告した。

【岩槻キャンパス】

平成26年度からスタートした「ピアサポート」は、上級生が下級生に対し学習を支援するシステムであるが、平成27年度は約30名の上級生が登録し下級生支援にあたった。

下級生は不得意科目を補うことが出来、また上級生は教えることで自らの理解度を更に高めることにもなり、学習面、精神面での成長がみられた。

(4) カリキュラム改正について【新宿キャンパス】

平成28年度からの施行分として、経営学部経営学科専門科目及び基礎教育科目について改正手続きを行なった。

前者については、「経営総合科目群」の新設、各コース制の位置づけの明確化、自由選択科目の拡大等を改正の柱としている。

後者については、学部間連携プログラム(Faculty Linkage Program)導入のため、情報教育科目2科目を新設したものである。

(5) 教職・国家試験等資格取得について【新宿キャンパス・岩槻キャンパス】

【新宿キャンパス】

① 教職関係

新宿キャンパス11学科(心理カウンセリング学科を除く。)は、教職課程の認定を受けており、それぞれ関係する教員免許状を取得することができる。埼玉県をはじめ千葉県・神奈川県・横浜市など8教育委員会による採用試験の説明会を積極的に実施した。平成27年度卒業生教員免許取得者数は次のとおり。(延人数225人、実人数194人)

| 教員免許状の種類          | 人数   |
|-------------------|------|
| 幼稚園教諭一種免許状        | 116名 |
| 小学校教諭一種免許状        | 48名  |
| 中学校教諭一種免許状(国語)    | 8名   |
| 中学校教諭一種免許状(英語)    | 7名   |
| 中学校教諭一種免許状(社会)    | 8名   |
| 高等学校教諭一種免許状(国語)   | 8名   |
| 高等学校教諭一種免許状(英語)   | 7名   |
| 高等学校教諭一種免許状(地理歴史) | 7名   |
| 高等学校教諭一種免許状(公民)   | 8名   |
| 高等学校教諭一種免許状(情報)   | 5名   |
| 高等学校教諭一種免許状(福祉)   | 3名   |



平成27年度卒業生の内、70名が教員として、1名が支援員として採用された。内訳は次のとおり。

・教員としての就職者数

| 学部学科       | 就職先    | 人数      |
|------------|--------|---------|
| 人間学部子ども学科  | 私立幼稚園  | 42名(注1) |
| 人間学部児童教育学科 | 公立小学校  | 25名     |
|            | 私立小学校  | 1名      |
| 外国語学部英米語学科 | 公立高等学校 | 1名      |
|            | 私立高等学校 | 1名      |

(注1) 子ども学科は、幼稚園教諭第一種免許と保育士資格を同時に取得する学生が多く、就職先としては幼稚園より、保育所に就職する者が多い。(保育所就職者 58名)

・支援員としての就職者数

| 学部学科       | 就職先     | 人数 |
|------------|---------|----|
| 人間学部児童教育学科 | 小学校(公立) | 1名 |

② 介護福祉士、保育士、学芸員

養成施設指定校としての資格取得者数は、次のとおり。

|           |            |      |
|-----------|------------|------|
| 介護福祉士(注1) | 人間学部人間福祉学科 | 26名  |
| 保育士(注1)   | 人間学部子ども学科  | 126名 |

本学は、学芸員課程の認定を受けており、原則全学部全学科で取得が可能となっている。資格取得者は次のとおり。

|     |                  |    |
|-----|------------------|----|
| 学芸員 | 人間学部心理カウンセリング学科  | 1名 |
|     | 社会学部メディア表現学科     | 4名 |
|     | 社会学部地域社会学科       | 8名 |
|     | 外国語学部日本語・日本語教育学科 | 1名 |

③ その他の資格取得者

カウンセリング実務士、上級情報処理士、プレゼンテーション実務士など全国大学実務教育協会認定の資格は、23名が取得し、社会学部共通で申請した社会調査士は、10名が取得した。全国保育サービス協会の認定ベビーシッターは、保育士取得者126名のうち88名が取得した。新たに、人間学部共通で申請したレクリエーション・インストラクター(日本レクリエーション協会)は、5名が取得、外国語としての韓国語教育資格は、3名(うち院生2名)が取得した。

④ 国家試験関係

【新宿キャンパス】

社会福祉士、精神保健福祉士

平成27年度社会福祉士、精神保健福祉士国家試験合格率及び合格者数は、次のとおり。

|         | 目白大学<br>(新卒) | 全国大学平均<br>(新卒) | 目白大学<br>(既卒含む) | 全国大学平均<br>(既卒含む) |
|---------|--------------|----------------|----------------|------------------|
| 社会福祉士   | 27.9% (17)   | 47.0%          | 15.4% (25)     | 24.6%            |
| 精神保健福祉士 | 90.9% (10)   | 74.1%          | 66.7% (12)     | 52.7%            |

( )内は合格者数

※全国大学平均は、福祉系大学等の卒業生。新卒は平成27年4月から平成28年3月までの卒業生

【岩槻キャンパス】

平成22年度から平成27年度までの国家試験の合格率は、次のとおりである。各学科とも100%を目指し、国家試験対策に注力している。とりわけ看護学部では国家試験の対策の強

化策の一つとして学生個人のスマートフォンやパソコンを利用した学内外での自主学習にも力を入れている。

(%)

|       |        | H22  | H23  | H24   | H25  | H26   | H27  |
|-------|--------|------|------|-------|------|-------|------|
| 理学療法士 | 目白大学   | 87.0 | 93.0 | 91.4  | 94.9 | 93.7  | 84.3 |
|       | 目白(新卒) | 87.5 | 96.1 | 92.0  | 97.2 | 94.5  | 87.3 |
|       | 全国平均   | 74.3 | 82.4 | 88.7  | 83.7 | 82.7  | 82.0 |
| 作業療法士 | 目白大学   | 77.8 | 85.2 | 85.2  | 92.3 | 89.7  | 90.0 |
|       | 目白(新卒) | 83.8 | 88.4 | 95.6  | 97.8 | 92.7  | 92.7 |
|       | 全国平均   | 71.0 | 79.7 | 77.3  | 86.6 | 77.5  | 94.1 |
| 言語聴覚士 | 目白大学   | 68.2 | 85.1 | 94.7  | 93.5 | 88.6  | 73.1 |
|       | 目白(新卒) | 73.7 | 91.4 | 100.0 | 93.1 | 90.9  | 77.3 |
|       | 全国平均   | 69.3 | 62.3 | 68.1  | 74.1 | 70.9  | 82.0 |
| 看護師   | 目白大学   | 97.9 | 96.8 | 94.9  | 97.4 | 94.0  | 96.4 |
|       | 目白(新卒) | 97.8 | 98.9 | 96.8  | 98.2 | 95.0  | 97.2 |
|       | 全国平均   | 91.8 | 90.1 | 88.8  | 89.6 | 90.0  | 94.9 |
| 保健師   | 目白大学   | 78.9 | 89.2 | 97.8  | 83.6 | 100.0 | 87.0 |
|       | 目白(新卒) | 86.9 | 91.9 | 100.0 | 86.0 | 100.0 | 89.2 |
|       | 全国平均   | 86.3 | 86.0 | 96.0  | 86.5 | 99.4  | 92.6 |

※「目白大学」「全国平均」は新卒と既卒の合計

## 5 大学院教育の整備充実

平成27年度は、大学院教育の整備充実に向け、次の施策を実施した。

### (1) 全研究科共通

#### ① 第3次中期目標・中期計画及び年度計画の策定

研究科・専攻ごとに、大学院教育の実質化や整備充実にかかる改善計画を含めた第3次中期目標・中期計画及び年度計画を策定した。

#### ② 3つのポリシーの策定

適切な入学選抜、体系的かつ組織的な教育展開、教育の内部質保障等を期して、研究科ごとに「教育課程編成と実施の方針(カリキュラム・ポリシー:以下「CP」という。)」及び「学位授与方針(ディプロマ・ポリシー:以下「DP」という。)」を策定し、「求める学生像(アドミッション・ポリシー:以下「AP」という。)」についても見直しを行なった。

なお、本件については10月の学部長等会議において決定し、年度内に本学Webサイトに掲載済みである。

### (2) 国際交流研究科

① 研究科の広報と社会貢献の一環として、また国際交流事業に関する共同研究の場として、国際交流研究科「第1回公開講演会」を開催した(6月)。観光立国日本と訪日外国人旅行者の増加を背景に、「観光業の「いま」ーグローバル化社会における取り組みー」をテーマとして実施した。

② 修士論文中間発表会及び最終試験を公開で実施した(7月及び2月)。1年生から学生全員の出席を義務づけ、教員も全員出席を原則としてコメントやアドバイスを積極的に与え、研究科全体で修士論文の指導に当たる体制を一層強化した。

③ 多様な層の学生の確保をめざし、また学生のニーズや論文指導の現状も踏まえ、カリキュラムの改訂と修了用件の見直しを次年度に行なうことを確認するとともに、その基となる研究科将来構想について検討を重ねた。

### (3) 心理学研究科

- ① 心理学研究科の現代心理学専攻、臨床心理学専攻、心理学専攻（博士後期課程）それぞれにCP、DP及びAPについて見直し、新たに定めた。
- ② 平成27年9月に国会で「公認心理師」法案が成立したことを受け、心理カウンセリング学科とともに研究科及び専攻のあり方について検討チームを発足させた。
- ③ 平成28年度入試において本学卒業者から進学した学生は、現代心理学専攻5名（在籍者11名）、臨床心理学専攻4名（在籍者21名）、博士後期課程1名（在籍1名）であった。今後も引き続き、内部からの進学者を増やしたい。
- ④ 平成27年10月～11月実施の日本臨床心理士資格認定協会の試験に、現役生（平成27年3月修了生）31名が受験し18名が合格した。いわゆる現役合格率は61.1%となり、全国の受験生総数の合格率は61.8%であったため、わずかに下回った。  
本学修士課程（臨床心理学専攻）を修了して博士後期課程に進学していた学生1名が心理学博士を取得した。

### (4) 経営学研究科

- ① 博士後期課程の入学者の確保及び在学生の研究の活性化を図った結果、台湾、イギリスの国際会議において、研究活動を行なうことができた。
- ② 修士課程入学者の中に、海外における3年制大学の卒業生を増やしたため、学生の学力低下を招いたことを踏まえ、修士課程入学者及び修了者の学力の向上を図る。  
各指導教員が積極的かつ熱心に指導した結果、全員が留年することなく、質の高い論文を仕上げ、修士課程を修了した。

### (5) 言語文化研究科

- ① 本研究科の人材育成目的並びにDP、CP及びAPを新たに策定した。
- ② 本研究科への志願状況等を勘察し、今後の発展を期して、中国・韓国言語文化専攻（定員10名）を、平成30年度から中国言語文化専攻（定員5名）と韓国言語文化専攻（定員5名）に二分し、かつ英語・英語教育専攻の定員を、同じく平成30年度から、現行の10名から5名に削減することを決めた。  
本研究科の主要な人材供給源となるべき本学外国語学部との、接続教育の在り方について、専攻ごとに、学部・学科と必要な協議を行なった。

### (6) 生涯福祉研究科

- ① ニーズのある科目の開講  
介護領域で働く専門職が学べるよう、カリキュラムの見直しを行ない「福祉経営特論」、「生活支援方法特論」を開講した。
- ② 認定社会福祉士制度を検討  
認定社会福祉士認証・認定機構の認定社会福祉士制度を検討した結果をふまえて、児童福祉特論、障害福祉特論、福祉サービス評価法を申請する準備を行なった。
- ③ 公開シンポジウムと公開講義の実施  
生涯福祉研究科をアピールするとともに地域貢献の一環及び福祉領域従事者、教員、大学院生及び学生の学びの場となることを目的として下記のテーマで開催した。  
(ア)シンポジウム：「認知症当事者の現状と地域支援のあり方 ～新宿区と目白大学の連携を考える～」  
(イ)公開講座：「コモンセンス・ペアレンティングってなんだろう？ - 子育て支援・育児に役立つコミュニケーション術 -」  
(ウ)公開講義：「発達障害学生の理解と支援」

### (7) 看護学研究科

- ① 平成28年度からの施行分として、カリキュラム改正手続を行なった。  
教育目的・目標を再度見直し、コースワークの再構築を行ないカリキュラムの改正を行なった。要点は、マネジメント分野の強化、及び「認定看護管理者」申請に必要な教科目を配置した。

- ② 大学院の第3次中期目標の策定とDP、CP及びAPの決定を行なった。  
研究指導能力の向上のためにFD活動を行なった質的研究方法、量的研究方法について講演会をリハビリテーション学研究科と双方が聴講できるよう企画した。

#### (8) リハビリテーション学研究科

- ① リハビリテーション学研究科を基盤に、博士後期課程の設置について検討を進めた。
- ② 研究科設置時のカリキュラムの点検を行ない、リハビリテーション分野の進展にともなうカリキュラム改正の必要性について検討した。  
応募者増を図るため、リハビリテーション病院・施設に加え、関連専門学校への研究科紹介活動を積極的に行なった。

## 6 短期大学教育の整備充実

### (1) 授業方法の改善による能動的学習の促進

- ① 「ベーシックセミナー」の更なる改善  
グループワークを深化させるとともにアクティブラーニングを積極的に取り入れた。また、学科内の平準化を図り、学習内容、授業の進行にバラツキのないようにした。
- ② PBLの実施  
PBLを実施するために、地域連携、学園祭等の企画運営を学生に体験させた。  
生活科学科では神楽坂高齢者施設でのセミナーの運営を数回行なった。  
製菓学科では高島屋開催のお菓子の販売、米屋、ナポリアイスとの製品企画と販売を実施した。  
ビジネス社会学科では、新宿区主催の戦争体験を聞き取り冊子にまとめる等の企画運営を行なった。
- ③ 事前学習、事後学習の充実  
シラバスに「事前準備・事後学修」の項目を追加し、予習・復習の指針を示すとともに、教員が事前準備・事後学習を学生に意識させた。概ね当初の予定した成果は得られたが、指示がない場合の学習の習慣をつけさせるまでには至らず、課題として残った。
- ④ 基礎学力にばらつきのある学生それぞれに応じた学習支援の計画  
基礎学力に対する個別の学習支援計画は、当初の成績をあげることができなかった。  
平成28年度入学生に対して、入学前教育として、e-learningによる5教科の復習を実施した。

### (2) 改正カリキュラムの実施と準備

- ① 生活科学科  
生活科学科は4つの学びのフィールドを見なおし、平成28年度から「ブライダル・コスメフィールド」「こどもフィールド」を新設し6フィールドとする。なお「介護福祉コース」は平成27年度の募集をもって新入生の募集を停止した。
- ② 製菓学科  
製菓学科は平成28年度から新たに「製菓衛生師コース」を新設する。平成28年度開設の新コースに向けての準備を行なった。
- ③ ビジネス社会学科  
ビジネス社会学科は平成28年度から3つの学びのフィールドを見直し、「メディカル秘書フィールド」「エアラインビジネスフィールド」を新設し5フィールドとする。新フィールドに向けての準備を行なった。

### (3) 学習成績の評価の適正化

- ① シラバスの確実な運用  
平成26年度に引き続き、シラバスの内容を更に充実させた。「事前学習、事後学習」項目に加え、「評価方法」に評価の基準を加え、学習成績の評価を見えやすいものとした。このシラバスを確実に運用した。
- ② 新たな成績評価基準の実施  
成績評価基準「80点以上である(S+A)の評価は概ね30%を限度とする」(短期大

学部教授会申し合わせ)を新たに設けた。平成26年度秋学期から試行しているが、平成27年度に本格的に実施し、学習成績の適切な評価を得ることができた。学科間において、成績基準にややばらつきがあるので、今後の検討とする。

③ GPAデータの変化の分析

学生個々人のGPAデータの変化を分析し、特に低位の学生の個別指導に役立てることができた。

(4) 就職支援の強化

① 「キャリアデザイン」科目の充実

クラス担任による授業から、キャリア教育を専門とする教員が担当する授業へと転換し、外部講師に頼っていた内容を専門教員が指導することで、就職への働きかけに効果をあげた。また、担当教員による内容のばらつきもなく、十分な成果を得ることができた。

② キャリアセンターとの連携の強化

キャリアセンター運営委員会に短期大学部会を設け、短期大学部固有の課題について、きめ細かい議論を経て学生への就職支援を行なうことができた。また、そのため学生への就職情報のきめ細やかな連絡をはかることができた。

③ 保護者との連携の強化

入学式後に保護者に対する就職のガイダンスを実施した。その効果もあり、秋に実施している保護者対象の就職説明会への参加者も増加し、より効果的な就職支援活動を行えた。

(5) 検定取得の促進

短期大学部の基本検定（日本語検定、秘書検定、販売士検定）の取得（者）数を増やすとともに、学科固有の検定の取得（者）数も増やすことができた。それぞれの検定試験は学内の資格取得関連科目と有機的に結び付け、学生の意欲を促す仕組みを作ることができた。

平成26年度秋学期に新設した検定取得奨学金も有効に利用でき、多くの検定取得奨学金を受け取る学生を輩出できた。特にリテールマーケティング1級2名等、多くの上級検定にも取得者を出すことができた。資格取得者数は次のとおりである。

| 認定機関等             | 資格名称                       | 合格(取得)数 |
|-------------------|----------------------------|---------|
| 国家資格              | 介護福祉士                      | 18      |
| 日本商工会議所認定資格       | リテールマーケティング<br>(販売士1級全科目)  | 1       |
|                   | リテールマーケティング<br>(販売士1級科目別)  | 1       |
|                   | リテールマーケティング<br>(販売士3級)     | 38      |
| 日本フードスペシャリスト協会    | フードスペシャリスト                 | 8       |
| 日本ファッション教育振興協会    | ファッション販売能力検定               | 12      |
| 実務技能検定協会          | 秘書技能検定2級                   | 23      |
|                   | ビジネス文書検定3級                 | 63      |
| 全国大学実務教育協会        | 上級秘書士 <sup>㊟</sup>         | 3       |
|                   | 秘書士 <sup>㊟</sup> (メディカル秘書) | 8       |
|                   | 秘書士 <sup>㊟</sup>           | 3       |
|                   | 観光ビジネス実務士                  | 5       |
|                   | プレゼンテーション実務士               | 1       |
| 食品衛生法施行条例に基づく公的資格 | 食品衛生責任者                    | 72      |
| 公益財団法人 日本漢字能力検定協会 | 漢字検定2級                     | 4       |

なお、平成26年度に新設した資格支援取得奨励制度により、43名の学生に奨励費を授与した。

## (6) スタディアブロード(海外留学)の実施

学生にグローバルな視野を開くため、短期海外留学、海外研修の実施について検討し、平成29年度から短大基礎教育科目に「スタディアブロード」科目を新設する。

## 7 就職活動支援の強化について

### (1) 新宿キャンパス

平成24年度から3年間続いた『採用選考に関する企業の倫理憲章』の採用スケジュールが変更され、平成27年度は『採用選考に関する指針』として採用広報解禁3月、採用選考解禁8月の後ろ倒しスケジュールの初年度であった。スケジュール変更の目的は、学生の学習時間確保等であったが、企業の採用スケジュールは不透明となり、指針を守る企業と守らない企業に二極化し、さらに、採用戦略としてのインターンシップが数多く実施されるなど、早期に学生と接触を図る企業も多く、就職活動の長期化はこれまでと同様であった。また、内定辞退の行き過ぎた歯止めとして、企業による「オワハラ(就職活動終われハラスメント)」もマスコミを騒がせ、学生・大学・企業の3者が混乱した1年であった。

#### ① 内定率

平成27年度卒業生の就職率(就職希望者を分母とする)は、学部が93.7%で、前年度より1.1ポイントの増、短期大学部は93.9%で前年度と同率となった。平成27年度秋学期は、大学、短期大学部ともに前年度より内定率が増加傾向であったが、年明けの伸びがみられなかった。その一因は、景気の回復から企業の採用意欲は高いが、採用予定人数に達しなくても、早々に募集を終了し、次年度の採用準備にシフトする傾向がみられ、1月からの求人件数が前年度より減少したことが挙げられる。平成28年度はこれを踏まえ、より敏速で細やかな支援体制を構築し、学生の活動量向上を目指したい。

#### 就職状況表

(平成28年5月1日現在)

|       |       | 卒業者数  | 就職希望者数 | 就職者数 | 就職率   | 就職率(前年度) |
|-------|-------|-------|--------|------|-------|----------|
| 学部    | 人間学部  | 414   | 370    | 353  | 95.4% | 93.9%    |
|       | 社会学部  | 290   | 248    | 234  | 94.4% | 92.1%    |
|       | 経営学部  | 111   | 102    | 94   | 92.2% | 88.9%    |
|       | 外国語学部 | 222   | 175    | 158  | 90.3% | 93.1%    |
|       | 4学部計  | 1,037 | 895    | 839  | 93.7% | 92.6%    |
| 短期大学部 |       | 161   | 131    | 123  | 93.9% | 93.9%    |

\*卒業生には平成27年9月卒業を含める。

\*就職率=就職者数/就職希望者数で、キャリアセンターに報告があった者のみの数

#### ② インターンシップ

インターンシップ正課授業「キャリア研修」では、簡易版リーフレットを作成し、事前学習、実地研修、事後学習、成果発表会の各プログラム内容や学生の満足度などを記載し、参加者促進を行なった。また、各学科のキャリアデザイン授業、ベーシックセミナーでのインターンシップについての説明や、キャリアセンターでの説明会時には、参加学生の体験談を聞く機会を積極的に設け、低学年の学生に「キャリア研修」がイメージできるよう工夫することで理解促進につながり、「キャリア研修I」参加者が前年度38名から67名と約1.8倍となった。

さらに、キャリアセンター職員がインターンシップ企業を全て訪問することで、学生、企業、大学へそれぞれプラスに作用した。まず学生へのプラス効果は、訪問した職員による各企業の特色や実習内容を紹介することで、企業への理解が深まり、企業とのマッチングがスムーズとなった。次に企業へのプラス効果は、大学への理解が深まり、実習内容を企業から提案いただくことで、インターンシップ自体の質向上につながった。最後に大学へのプラス効果は、企業との信頼関係が構築できたことで、行なう「キャリア研修」以外でのインターンシップを個別に受け入れていただける企業も増え、インターンシップの間口が広がった点

といえる。

### ③ 就職支援プログラム

平成27年度卒学生へは、採用スケジュールの変更から、例年2月に行っていた学内合同企業説明会を4月へ後ろ倒し実施した結果、2日間で延べ514名が参加し、滑り出しの学生の反応は良好であった。しかし、6月に実施した合同企業説明会の参加者数が激減したため、中盤は、キャリアセンターでの個別対応を中心に支援を行なった。さらに中盤から後半にかけては、厚生労働省の新卒応援ハローワークとの連携を強化し、8月、10月、2月と新卒応援ハローワークによる求人紹介イベントを学内で実施し、延べ86名が参加した。

平成28年度卒学生への就職支援では、採用スケジュールの再変更に伴い、学内合同企業説明会を1か月前倒し、3月に実施したところ、1日で363名の参加者があり、好感触であった。また、10月から3月までは業界研究として、製造、商社、金融、流通、IT、ホテル、アパレル、医療等の様々な業種の企業に加え、平成27年度より公務員も招致し12事業所の採用担当者と学生との接点を設けた。

公務員対策講座は、前年度に引き続き、幅広い学生に受講してもらい、夏季休業期間中は基礎的な学習を開始し、一般企業にも対応できる基礎的学力を身につけ、10月から3月中旬までは公務員基礎講座、3月中旬からは10コマの公務員対策直前講座を開講し、合計70コマ、44日間という長期プログラムを行なった。

SPI試験対策講座は、夏季休業期間と採用広報解禁直前の2月に講座を開講し、少人数の能力別クラスを編成し、各学生の理解度を高め、充実を図った。

さらに平成27年度は、エアライン希望者向け講座や、U・Iターンなどの地方就職を考えている学生向けの講座や、留学生向けの就職支援講座の実施など、さまざまな学生のニーズに対応した講座を実施した。

また、社会人基礎力測定PROGを2年生秋学期終盤の「キャリアデザインB」で7学科が実施し、3年次の就職活動を前に、各自の「対人」「対自己」「対課題」基礎力を理解した上で、自分の強み促進方法、弱み克服方法を学び、就職活動前の学生の意識向上を図った。また、キャリアセンターでは、全体の測定結果から大学全体及び各学科の傾向を把握し、分析することで、今後のキャリア教育の課題を理解することに努めた。

### ④ 就職相談・指導体制の強化

従来のキャリアカウンセラーによる相談体制に加え、キャリアセンター職員による求人紹介を中心とした相談体制を強化した。9月にはキャリアセンターを10号館から1号館に移設し、相談環境の整備を行なった。さらに、資料閲覧室が新設されたことで、求人票や企業、事業所等のパンフレットを分類、整理し、学生へ見やすく情報提供することが可能になった。また、資料閲覧室内ではグループワークやミニ講座が開催できるスペースもあり、さまざまな用途で活用できる環境となっている。加えて、掲示スペースを拡大し、良質企業の求人や説明会の告知、急募の求人票、インターンシップの告知を視覚的に喚起することで、足を止めて掲示板に目を向ける学生も多くなり、就職活動中の学生の動機付けと、これから就職活動を行なう学生への意識付けとなった。

## (2) 岩槻キャンパス

### ① 求人先の開拓

保健医療学部、看護学部とも国家試験合格者は、開設以来、正規採用で100%就職している。求人数も一貫して増加しているが、就職環境が変化しても安定的な就職先を確保するため、学内で合同就職説明会を開催し、病院、医療センター、社会福祉法人、介護老人保健施設など実習でお世話になっている施設を中心に来校いただいている。平成27年度は両学部合計で74施設にお越しいただいた。平成28年度は100施設以上の来校を予定している。

### ② 求人資料情報提供の充実

岩槻キャンパスには就職資料室を常設し、求人先資料が地域別に整理されている。これまで約1500施設であったものが平成27年度には2000施設を超え、更に充実してきた。今後は学科との連携もより強化し、上質な情報の提供に努める。

## 8 教員の研究活動に対する支援の強化について

### (1) 科学研究費助成事業（科研費）の獲得の推進

平成27年度における科学研究費助成事業（科研費）の採択状況は、次のとおり。

- ・採択件数： 大学46件、短期大学部2件 合計48件
  - ・採択額： 大学48,360千円、短期大学部1,300千円 合計49,660千円
- であり、このうち大学の採択件数46件は、全ての私大（604校）の91位（上位15.1%）に該当（私大医歯薬学部を除いた場合、43位）し、採択件数採択額ともに、4、5年前のほぼ倍増となっている。

なお、科研費等公的研究費の採択の増加を図るため、以下の措置を継続して実施した。

#### ① 学内特別研究費の重点配分の実施（平成23年度から）

平成27年度においても、科学研究費申請のための特別研究費について、学内公募により64件の研究計画に対して助成を行なった。

- ② 全学FD研修会における「科研費研究成果報告会」の開催（ポスターセッション形式）
- ③ 「科研費申請のためのポイント」の作成・配布（全27ページ）
- ④ 科研費申請手続等説明会の開催
- ⑤ 前年度不採択者の情報開示における審査委員指摘事項の分析と傾向のまとめと周知
- ⑥ 科研費審査委員経験者（本学教員）による科研費申請アドバイス制の実施
- ⑦ その他

### (2) 学術研究推進のための学内特別助成の実施

その他学術研究の推進を図る観点から、「学術研究プロジェクト助成」4件、「教育向上関連プロジェクト助成」5件、「海外における学会発表等への旅費等助成」18件、「学術書刊行のための経費助成」2件及び平成27年度からの新たな助成として「若手研究者支援のための研究活動助成」として4件を実施した。

### (3) 地域連携・産学連携・地域貢献等の推進

国、自治体及び産業界などが主催する「イノベーション・ジャパン」など大型の産学マッチングイベント3件へ出展を行なった。

また、教育や研究を活性化するとともに、企業や地域社会の課題解決にもつながる研究成果等の創出に向け、大学として組織的な展開を図る観点から、既に短期大学部と包括連携協定を締結した株式会社ナポリアイスクリューム、米屋株式会社との学生コンテストによる新商品開発・販売等の実施の他、平成27年度は、新たに西武信用金庫、新宿区との2件の包括連携協定を大学・短期大学部と締結し、今後様々な連携事業を実施することとしている。



## 9 入学生の安定的確保

平成27年度中の入試状況（平成28年度入試）

ア 1年次入学者

入学者数は平成28年4月1日現在

|               | 研究科・学部名          | 専攻・学科名          | 入学定員     | 志願者   | 受験者   | 合格者   | 入学者   |       |
|---------------|------------------|-----------------|----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 大学院           | 国際交流研究科          | 国際交流専攻（修士）      | 20       | 21    | 21    | 17    | 17    |       |
|               |                  | 小計              | 20       | 21    | 21    | 17    | 17    |       |
|               | 心理学研究科           | 心理学専攻（博士後期）     | 3        | 3     | 3     | 1     | 1     |       |
|               |                  | 現代心理学専攻（修士）     | 20       | 16    | 15    | 12    | 11    |       |
|               |                  | 臨床心理学専攻（修士）     | 30       | 106   | 88    | 25    | 22    |       |
|               |                  | 小計              | 53       | 125   | 106   | 38    | 34    |       |
|               | 経営学研究科           | 経営学専攻（博士後期）     | 3        | 0     | 0     | 0     | 0     |       |
|               |                  | 経営学専攻（修士）       | 20       | 12    | 8     | 1     | 1     |       |
|               |                  | 小計              | 23       | 12    | 8     | 1     | 1     |       |
|               | 生涯福祉研究科          | 生涯福祉専攻（修士）      | 20       | 5     | 5     | 3     | 3     |       |
|               |                  | 小計              | 20       | 5     | 5     | 3     | 3     |       |
|               | 言語文化研究科          | 英語・英語教育専攻（修士）   | 10       | 2     | 2     | 2     | 2     |       |
|               |                  | 日本語・日本語教育専攻（修士） | 10       | 26    | 24    | 14    | 13    |       |
|               |                  | 中国・韓国言語文化専攻（修士） | 10       | 12    | 11    | 8     | 8     |       |
|               |                  | 小計              | 30       | 40    | 37    | 24    | 23    |       |
|               | 看護学研究科           | 看護学専攻（修士）       | 15       | 9     | 9     | 8     | 8     |       |
| 小計            |                  | 15              | 9        | 9     | 8     | 8     |       |       |
| リハビリテーション学研究科 | リハビリテーション学専攻（修士） | 15              | 12       | 12    | 11    | 11    |       |       |
|               | 小計               | 15              | 12       | 12    | 11    | 11    |       |       |
| 研究科合計         |                  |                 | 176      | 224   | 198   | 102   | 97    |       |
| 大学            | 人間学部             | 心理カウンセリング学科     | 120      | 695   | 644   | 399   | 135   |       |
|               |                  | 人間福祉学科          | 120      | 258   | 249   | 222   | 92    |       |
|               |                  | 子ども学科           | 140      | 458   | 426   | 291   | 141   |       |
|               |                  | 児童教育学科          | 50       | 326   | 312   | 214   | 67    |       |
|               |                  | 小計              | 430      | 1,737 | 1,631 | 1,126 | 435   |       |
|               | 社会学部             | 社会情報学科          | 120      | 479   | 460   | 386   | 141   |       |
|               |                  | メディア表現学科        | 120      | 483   | 456   | 422   | 122   |       |
|               |                  | 地域社会学科          | 80       | 288   | 273   | 238   | 98    |       |
|               |                  | 小計              | 320      | 1,250 | 1,189 | 1,046 | 361   |       |
|               | 経営学部             | 経営学科            | 120      | 827   | 776   | 584   | 141   |       |
|               |                  | 小計              | 120      | 827   | 776   | 584   | 141   |       |
|               | 外国語学部            | 英米語学科           | 80       | 591   | 569   | 431   | 108   |       |
|               |                  | 中国語学科           | 40       | 77    | 74    | 63    | 29    |       |
|               |                  | 韓国語学科           | 60       | 330   | 272   | 133   | 74    |       |
|               |                  | 日本語・日本語教育学科     | 40       | 158   | 144   | 119   | 53    |       |
|               |                  | 小計              | 220      | 1,156 | 1,059 | 746   | 264   |       |
|               | 保健医療学部           | 理学療法学科          | 80       | 593   | 557   | 261   | 97    |       |
|               |                  | 作業療法学科          | 60       | 228   | 212   | 152   | 68    |       |
|               |                  | 言語聴覚学科          | 40       | 129   | 126   | 93    | 38    |       |
|               |                  | 小計              | 180      | 950   | 895   | 506   | 203   |       |
|               | 看護学部             | 看護学科            | 100      | 866   | 805   | 311   | 116   |       |
|               |                  | 小計              | 100      | 866   | 805   | 311   | 116   |       |
|               | 学部合計             |                 |          | 1,370 | 6,786 | 6,355 | 4,319 | 1,520 |
|               | 短期大学部            | 生活科学科           | 生活科学科    | 80    | 111   | 108   | 100   | 93    |
|               |                  |                 | 製菓学科     | 80    | 98    | 96    | 86    | 71    |
|               |                  |                 | ビジネス社会学科 | 60    | 93    | 92    | 83    | 71    |
|               |                  | 短大合計            |          |       | 220   | 302   | 296   | 269   |
| 高等学校          |                  |                 | 260      | 529   | 519   | 492   | 269   |       |
| 中学校           |                  |                 | 100      | 91    | 85    | 74    | 46    |       |
| 中・高合計         |                  |                 | 360      | 620   | 604   | 566   | 315   |       |
| 学園総計          |                  |                 | 2,126    | 7,932 | 7,453 | 5,256 | 2,167 |       |

イ 編入学者

編入学者数は平成28年4月1日現在

|     | 研究科・学部名 | 専攻・学科名      | 入学定員 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 |
|-----|---------|-------------|------|-----|-----|-----|-----|
| 大 学 | 人間学部    | 心理カウンセリング学科 | 10   | 11  | 10  | 5   | 3   |
|     |         | 人間福祉学科      | 10   | 0   | 0   | 0   | 0   |
|     |         | 子ども学科       | 10   | 5   | 5   | 3   | 3   |
|     |         | 児童教育学科      | 0    | 1   | 1   | 1   | 1   |
|     |         | 小 計         | 30   | 17  | 16  | 9   | 7   |
|     | 社会学部    | 社会情報学科      | 5    | 7   | 7   | 7   | 6   |
|     |         | メディア表現学科    | 5    | 1   | 1   | 1   | 1   |
|     |         | 地域社会学科      | 5    | 2   | 2   | 2   | 1   |
|     |         | 小 計         | 15   | 10  | 10  | 10  | 8   |
|     | 経営学部    | 経営学科        | 5    | 5   | 5   | 0   | 0   |
|     |         | 小 計         | 5    | 5   | 5   | 0   | 0   |
|     | 外国語学部   | 英米語学科       | 5    | 1   | 1   | 1   | 1   |
|     |         | 中国語学科       | 若干名  | 0   | 0   | 0   | 0   |
|     |         | 韓国語学科       | 若干名  | 0   | 0   | 0   | 0   |
|     |         | 日本語・日本語教育学科 | 若干名  | 10  | 10  | 4   | 3   |
|     |         | 小 計         | 5    | 11  | 11  | 5   | 4   |
|     | 保健医療学部  | 理学療法学科      | —    | —   | —   | —   | —   |
|     |         | 作業療法学科      | —    | —   | —   | —   | —   |
|     |         | 言語聴覚学科      | —    | —   | —   | —   | —   |
|     |         | 小 計         | —    | —   | —   | —   | —   |
|     | 看護学部    | 看護学科        | —    | —   | —   | —   | —   |
|     |         | 小 計         | —    | —   | —   | —   | —   |
|     | 学部合計    |             |      | 55  | 43  | 42  | 24  |

(1) 大学院

大学院の総志願者数は、対前年4.2%増の224名で、4年連続の減少から増加に転じた。専攻別にみると、臨床心理学専攻が34.2%増の106名、リハビリテーション学専攻が71.4%増の12名と前年を大幅に上回る志願者数となったものの、経営学専攻が33.3%減の12名、日本語・日本語教育専攻が31.6%減の26名となるなど、12専攻中6専攻が減少した。最終的には、日本語・日本語教育専攻を除く11専攻の入学者数が、入学定員まで届かないという厳しい結果となった。

(2) 大学

AO・推薦型入試の志願者数が5.4%減となったほか、一般型入試の志願者数も8.7%減となり、全入試日程の総志願者数は7.1%減の6,786名という結果となった。また、学部別志願者数では、社会学部が16.3%減、保健医療学部が12.3%減となったほか、人間学部(11.7%減)も減少に転じた。しかしながら、一般入試を中心として、欠席率が大幅に低下したことや歩留率の上昇もあり、入学者の確保状況については、全学部で入学定員を上回ることができた。ただし、学科単位で見た場合には、人間福祉学科、中国語学科、言語聴覚学科の3学科で入学定員を割り込んでおり、引き続き入学者の安定的確保にむけ、AO・推薦型入試と一般型入試前期日程での募集強化を図り、より多様な学生の確保に繋がる入試広報活動を展開していく必要がある。

(3) 短期大学部

指定校枠の拡大効果により、推薦入試の志願者数が45.5%増の112名となり、短期大学部全体での入学者も235名まで伸ばすことができた。学科単位で見た場合、製菓学科のみ入学定員を割り込む結果となったが、生活科学科が93名、ビジネス社会学科が71名の入学

者を確保できた。全国の短期大学進学希望者が減少傾向であることに加え、製菓系等の競合する分野では、依然として専門学校の人気が高いため、引き続き短期大学部独自の募集活動の強化と工夫が必要となる。

## 10 中学校・高等学校改革の推進

学校改革の第3ステージに当たる平成27年度は、6年一貫教育の本格的な改革、スーパー・イングリッシュ・コース（以下「SEC」という。）の高校課程の実践に取り組むと同時に、次期学習指導要領改訂（2020年問題）の課題と対応策の検討を開始した。第2ステージ3年間の改革の実績をもとに、すべての面で「チーム目白」として「学校力」の向上を目指し、以下の事業に取り組んだ。

### (1) 新6年一貫教育の教育計画の作成

#### ① 新しい教育システムを構築した。

コース検討プロジェクトで検討を重ねて、6年一貫コースの新しいコース選択制を決定し、広報活動・生徒募集に生かした。

#### ② 育てたい生徒像の明確化とそのための方策とプログラムを確立した。

コース検討プロジェクトで検討を重ねて、「コミュニケーション力」「問題発見・解決力」「自己肯定力」の3つの力を柱とする育てたい生徒像の理念を策定した。

### (2) 学習指導部の設置

#### ① 進路指導部と教務部の学習指導関係面を統合し、学習指導の体系化を図り、学習指導の充実を目指した。

国の高大接続改革・次期学習指導要領改訂の予定（予想）等を鑑み、当年度は本格的な検討はしなかった。高校の特進コースでは検討を進めて、学習指導上の具体的な目安を策定した。

#### ② 成績評価法・処理法を進学校として適切なものへの変更

本格的な変更については、高大接続改革・次期学習指導要領改訂時に検討することとし、今回は学習指導プロジェクトで検討の結果一部の変更を決定した。

#### ③ 各教科の指導計画の統括

本格的な変更については、高大接続改革・次期学習指導要領改訂時に検討することとした。

### (3) 教科指導力の向上

#### ① PDCAサイクルによる授業力の改善

進学校として教科指導に十分に機能するように、今後とも改善・検討を進める。

#### ② 各学年・コース毎の学力の定着・伸長を目標とするシラバス作成

本格的な変更に関する検討は、高大接続改革・次期学習指導要領改訂検討時にやることとした。

#### ③ 次期学習指導要領改訂の課題と対応策の検討開始

本格的な変更に関する検討は、高大接続改革・次期学習指導要領改訂検討時にやることとした。各種セミナーに参加して情報収集にあたった。

### (4) 進路指導の充実

#### ① 中期計画の進学目標の達成を目指して、スキルの共有・情報の蓄積を図り、進路・学習支援を強化した。

進路指導部・学年・教科・学習支援センターが連携して、コース及び個人への指導・支援する態勢を構築した。

#### ② 「チーム目白」として、教員（担任と進路指導部）と生徒がチームを組んで、目標の早期設定、高い志の維持、進路選定・決定までの進路実現支援体制を確立した。

進路指導主任・担任・教科担当・学習支援センター担当者が連携して、面談等でアドバイスやカウンセリングにあたり、目標達成を実現する態勢を構築した。

## (5) SEC 高校課程の開始

- ① 国際理解教育の高校課程 3 年間の系統的プログラムの作成  
高校 1～2 年次のプログラムを試行錯誤的に実践した。
- ② 1 年次の教育実践とプログラムの質的向上  
高校 1～2 年次のプログラムを試行錯誤的に実践している。1 年次のプログラムは 1 年の実践経験が有効に機能した。

## (6) 広報・生徒募集の強化

- ① 6 年一貫教育の広報力の強化と生徒募集力の向上  
新しい学習ステージを紹介する広報ツールを作成し、広報活動・生徒募集に活用した。
- ② ホームページのリニューアルにより広報力のアップを図り、説明会参加者の増加を図った。  
明るい斬新なものになり、説明会参加者のアンケートによると、ホームページ閲覧者が増加した。

# 1 1 危機管理体制の整備充実

危機管理の基本方針は、学生・生徒の生命身体の安全を確保することを第一とし、災害等によって、学生・生徒に重大な被害が生じ、又は生じるおそれがある場合は、関係官公庁・諸関係機関等と連携しながら、教職員が一体となって協力して、危機対応策に取り組むことである。

学生・生徒・教職員等に対して、危機管理意識の啓発に努めた。学生向けに作成している「震災対応簡易マニュアル」を改訂して、在学生には在学生オリエンテーション時に、新入生オリエンテーション時やフレッシュマンセミナー時に学生一人ひとりに配布した。

中学校・高等学校の生徒に対しては、災害時の対応簡易マニュアルを掲載している「学園生活のしおり」を改訂して、生徒一人ひとりに配布し、ホームルーム時間を利用し危機管理意識の啓発に努めた。

### (1) 各種訓練（避難訓練・防災訓練）の実施について

「危機管理マニュアル」に定める避難訓練と防災訓練の指針に沿い、年間スケジュールを通して、大学・短期大学部及び高等学校・中学校において計画的に実施した。

平成 27 年 1 月に新宿キャンパス大学部門において、授業中による学生教職員が参加しての総合避難訓練を実施した。

また、平成 27 年 10 月実施の学園祭で、所轄消防署の支援協力指導のもと、消火器・消火栓を使用した実践的消火訓練を実施した。

防犯対策（不審者等）については、学生・生徒と教職員の心身の安全の確保を第一として、関係機関（警察・警備員）等と連携して対応策を実施した。

### (2) 災害緊急時の対応整備

地震・風水害・火災等の災害緊急の災害が発生した場合は、学生・生徒の安否確認をするために、各種の連絡媒体やラジオの学校安否情報・災害伝言ダイヤルなどを利用する体制を構築した。各キャンパスに衛星電話を設置するなど、災害緊急時の連絡体制の整備充実を図った。

### (3) 備蓄品の整備

備蓄品・非常用物品のうち、飲料水・食糧品カンパン等について、東京都帰宅困難者対策条例・国のガイドラインに沿った 3 日間分を確保するため、計画的に備蓄を進めた。また、自衛消防隊装備品・工具備品・災害用品等のアイテム数を増やした。

# 1 2 施設の整備年次計画の策定及び計画的整備

平成 27 年度に教育環境の整備及び学生・生徒へのサービス向上等を図るため、施設の整備年次計画を策定し、平成 27 年度は、次の施設設備の整備を推進した。

(1) キャンパス環境の整備計画

【新宿キャンパス】

・ 10号館1階・記念館講堂・第二体育館特定天井の耐震化落下防止の対策工事 金額 49,300千円

・ 5号館大体育館特定天井の耐震化落下防止の対策工事 金額 23,100千円

【岩槻キャンパス】

・ 本館設備機器類(空調機・照明器具等)の高効率化のため、省エネルギー型機器更新工事 金額 37,700千円

(2) 施設設備の充実・改善計画

【新宿キャンパス】

・ 10号館・7号館等の講義室のプロジェクター等視聴覚機器類更新工事 金額 24,500千円

【岩槻キャンパス】

・ コミュニティプラザ・Kiri 金額 175,500千円

・ 大学会館食堂内装関係等改修工事・厨房機器類更新工事 金額 30,700千円

## 1.3 卒業生との連携強化

(1) 同窓会の連携強化

本学と同窓会の連携を強化する目的で、大学学長と同窓会長が協議し、大学からの提案・依頼(キャリア支援を含む。)された事項について同窓会側が検討することとなった。

また、新宿キャンパスの大学祭では、同窓生の部屋を設置し運営したほか、岩槻キャンパスでは、入学者のフォローアップ研修で、卒業生から学科の紹介や後輩への助言などを行なった。

### Ⅲ 財務の概要

#### 1 資金収支計算書

(単位：千円)

| 科 目    |             | H23         | H24         | H25         | H26         | H27         |
|--------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 収入の部   | 学生生徒等納付金収入  | 8,608,400   | 8,609,043   | 8,467,050   | 8,396,151   | 8,144,152   |
|        | 手数料収入       | 208,580     | 206,098     | 215,383     | 200,176     | 191,240     |
|        | 寄付金収入       | 31,561      | 33,502      | 30,923      | 53,833      | 16,999      |
|        | 補助金収入       | 1,116,632   | 1,082,482   | 1,141,955   | 1,164,199   | 1,196,857   |
|        | 国庫補助金収入     | 774,033     | 736,734     | 786,078     | 800,504     | 780,227     |
|        | 地方公共団体補助金収入 | 342,599     | 345,748     | 355,877     | 363,695     | 416,630     |
|        | 資産売却収入      | 356,072     | 285,262     | 2,196,771   | 73,945      | 4,200,507   |
|        | 付随事業・収益事業収入 | 330,541     | 326,119     | 324,841     | 331,223     | 247,568     |
|        | 受取利息・配当金収入  | 177,005     | 156,340     | 157,967     | 144,321     | 217,010     |
|        | 雑収入         | 236,662     | 304,454     | 253,553     | 207,176     | 210,782     |
|        | 借入金等収入      | 1,400       | 2,000       | 1,200       | 1,200       | 1,400       |
|        | 前受金収入       | 5,083,094   | 5,142,121   | 5,080,982   | 3,727,276   | 2,922,028   |
|        | その他の収入      | 258,604     | 339,094     | 944,558     | 231,882     | 307,445     |
|        | 資金収入調整勘定    | △ 5,403,812 | △ 5,323,266 | △ 5,358,263 | △ 5,255,269 | △ 3,906,272 |
|        | 前年度繰越支払資金   | 7,383,989   | 8,066,670   | 9,401,508   | 10,275,809  | 9,281,608   |
| 収入の部合計 | 18,388,728  | 19,229,919  | 22,858,428  | 19,551,922  | 23,031,324  |             |
| 支出の部   | 人件費支出       | 5,175,962   | 5,337,357   | 5,320,317   | 5,345,206   | 5,327,170   |
|        | 教育研究経費支出    | 1,664,262   | 1,671,997   | 1,892,767   | 1,679,519   | 1,776,389   |
|        | 管理経費支出      | 1,147,151   | 791,629     | 759,712     | 650,832     | 661,512     |
|        | 借入金等利息支出    | 79,500      | 72,157      | 65,009      | 58,075      | 51,145      |
|        | 借入金等返済支出    | 438,314     | 436,594     | 390,924     | 390,724     | 391,324     |
|        | 施設関係支出      | 823,954     | 369,369     | 233,535     | 738,416     | 289,082     |
|        | 設備関係支出      | 164,566     | 262,760     | 237,391     | 140,540     | 269,398     |
|        | 資産運用支出      | 371,760     | 1,002,034   | 3,668,194   | 1,004,176   | 7,617,720   |
|        | その他の支出      | 913,140     | 466,353     | 693,317     | 725,101     | 530,503     |
|        | 資金支出調整勘定    | △ 456,551   | △ 581,839   | △ 678,547   | △ 462,275   | △ 435,599   |
|        | 次年度繰越支払資金   | 8,066,670   | 9,401,508   | 10,275,809  | 9,281,608   | 6,552,680   |
| 支出の部合計 | 18,388,728  | 19,229,919  | 22,858,428  | 19,551,922  | 23,031,324  |             |

#### 概 要

収入の部では、学生生徒納付金収入は大学・中学校の在籍者数の減少に伴い前年比 2 億 5200 万円減少し、補助金収入は高等学校の生徒数の増加などにより前年比 3300 万円増加し、付随事業・収益事業収入は、医療収入の減収などにより前年比 8400 万円減少した。また、受取利息・配当金収入は、資産運用の利金等が増加したため、前年比 7300 万円増加した。

支出の部では、人件費支出は役員報酬の減額等により前年比 1800 万円減少したが、教育研究経費支出及び管理経費支出は、前年比 1 億 800 万円増加した。施設関係支出は前年に借地購入という特殊要因があったため前年比 4 億 4900 万円減少し、資産運用支出は資金運用を積極的に行ったため 66 億 1400 万円増加した。

以上の結果、収入から支出を差し引いた次年度繰越支払資金(現金預金)は、前年比 27 億 2900 万円減の 65 億 5300 万円となった。

## 2 事業活動収支計算書

(単位：千円)

| 科 目           |           | H23         | H24         | H25         | H26         | H27       |           |
|---------------|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----------|-----------|
| 教育活動収支        | 事業活動収入の活動 | 学生生徒等納付金    | 8,608,400   | 8,609,043   | 8,467,050   | 8,396,151 | 8,144,152 |
|               |           | 手数料         | 208,580     | 206,098     | 215,383     | 200,176   | 191,240   |
|               |           | 寄付金         | 31,561      | 33,502      | 30,923      | 53,833    | 17,000    |
|               |           | 経常費補助金      | 1,103,580   | 1,058,740   | 1,109,049   | 1,152,620 | 1,150,024 |
|               |           | 国庫補助金       | 763,898     | 717,002     | 757,204     | 791,342   | 743,347   |
|               |           | 地方公共団体補助金   | 339,682     | 341,738     | 351,845     | 361,278   | 406,677   |
|               |           | 付随事業収入      | 330,540     | 326,119     | 324,841     | 331,223   | 247,568   |
|               |           | 雑収入         | 236,662     | 304,454     | 253,821     | 207,574   | 200,935   |
|               | 【教育活動収入計】 | 10,519,323  | 10,537,956  | 10,401,067  | 10,341,577  | 9,950,919 |           |
|               | 事業活動支出    | 人件費         | 5,181,298   | 5,442,598   | 5,536,670   | 5,424,585 | 5,407,119 |
|               |           | 教育研究経費      | 2,527,858   | 2,542,047   | 2,783,674   | 2,579,549 | 2,699,856 |
|               |           | 管理経費        | 1,207,387   | 855,178     | 825,414     | 712,199   | 756,666   |
|               |           | 徴収不能額等      | 0           | 0           | 886         | 0         | 0         |
|               |           | 【教育活動支出計】   | 8,916,543   | 8,839,823   | 9,146,644   | 8,716,333 | 8,863,641 |
| 教育活動収支差額      |           | 1,602,780   | 1,698,133   | 1,254,423   | 1,625,244   | 1,087,278 |           |
| 教育活動外収支       | 収入        | 受取利息・配当金    | 177,005     | 156,340     | 157,967     | 144,321   | 217,010   |
|               |           | 【教育活動外収入計】  | 177,005     | 156,340     | 157,967     | 144,321   | 217,010   |
|               | 支出        | 借入金等利息      | 79,501      | 72,157      | 65,009      | 58,075    | 51,146    |
|               |           | 【教育活動外支出計】  | 79,501      | 72,157      | 65,009      | 58,075    | 51,146    |
| 教育活動外収支差額     |           | 97,504      | 84,183      | 92,958      | 86,246      | 165,864   |           |
| 経常収支差額        |           | 1,700,284   | 1,782,316   | 1,347,381   | 1,711,490   | 1,253,142 |           |
| 特別収支          | 収入        | 資産売却差額      | 0           | 0           | 117,364     | 9,107     | 136,668   |
|               |           | その他の特別収入    | 20,957      | 32,394      | 45,892      | 22,611    | 64,914    |
|               |           | 【特別収入計】     | 20,957      | 32,394      | 163,256     | 31,718    | 201,582   |
|               | 支出        | 資産処分差額      | 156,595     | 294,115     | 58,582      | 25,843    | 4,942     |
|               |           | その他の特別支出    | 0           | 0           | 0           | 0         | 13,113    |
|               |           | 【特別支出計】     | 156,595     | 294,115     | 58,582      | 25,843    | 18,055    |
| 特別収支差額        |           | △ 135,638   | △ 261,721   | 104,674     | 5,875       | 183,527   |           |
| 基本金組入前当年度収支差額 |           | 1,564,647   | 1,520,594   | 1,452,055   | 1,717,366   | 1,436,669 |           |
| 基本金組入額合計      |           | △ 1,231,763 | △ 1,000,359 | △ 929,816   | △ 1,006,959 | △ 936,676 |           |
| 当年度収支差額       |           | 332,884     | 520,235     | 522,239     | 710,407     | 499,993   |           |
| 前年度繰越収支差額     |           | △ 2,551,648 | △ 2,218,764 | △ 1,698,529 | △ 1,176,289 | △ 465,882 |           |
| 基本金取崩額        |           | 0           | 0           | 0           | 0           | 0         |           |
| 翌年度繰越収支差額     |           | △ 2,218,764 | △ 1,698,529 | △ 1,176,290 | △ 465,882   | 34,111    |           |

### 概要

教育活動収支差額は、学生生徒納付金、寄付金、付随事業収入など収入の減少の一方で、支出では教育研究経費及び管理経費の増加に伴い、前年比 5 億 3800 万円減の 10 億 8700 万円となった。教育活動外収支差額は、受取利息・配当金の増加により、前年比 8000 万円増の 1 億 6600 万円となった。特別収支差額は、有価証券売却差額が 1 億 3700 万円あったため、前年比 1 億 7800 万円増の 1 億 8400 万円となった。

以上の結果、基本金組入前当年度収支差額は、14 億 3700 万円のプラスであったが、前年比では 2 億 8100 万円の減となった。

基本金組入額は 9 億 3700 万円となり前年比 7000 万円の減であったが、前年は借地購入という特殊要因があったため、ほぼ例年通りの組入れとなった。

基本金組入額後の当年度収支差額は、前年比 2 億 1000 万円の減ながら、5 億円のプラスとなり、前年度繰越収支差額はマイナス 4 億 6600 万円であったが、翌年度繰越収支差額は、3400 万円のプラスになった。

### 3 貸借対照表

(単位:千円)

| 科 目         |            | H23         | H24         | H25         | H26        | H27        |
|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|------------|------------|
| 資産の部        | 固定資産       | 41,755,682  | 42,169,873  | 42,967,969  | 43,395,620 | 46,334,950 |
|             | 有形固定資産     | 36,682,944  | 36,286,314  | 35,813,211  | 35,749,135 | 35,278,628 |
|             | 土地         | 10,632,372  | 10,632,372  | 10,632,372  | 11,289,898 | 11,289,898 |
|             | 建物         | 21,496,755  | 21,190,765  | 20,804,217  | 20,182,895 | 19,813,764 |
|             | その他の有形固定資産 | 4,553,817   | 4,463,177   | 4,376,622   | 4,276,342  | 4,174,965  |
|             | 特定資産       | 2,790,954   | 3,652,187   | 5,897,343   | 6,459,726  | 8,050,267  |
|             | その他の固定資産   | 2,281,784   | 2,231,372   | 1,257,415   | 1,186,759  | 3,006,055  |
|             | 流動資産       | 9,903,163   | 11,007,394  | 11,442,907  | 10,829,375 | 8,286,686  |
|             | 現金預金       | 8,066,670   | 9,401,508   | 10,275,809  | 9,281,608  | 6,552,681  |
|             | その他の流動資産   | 1,836,493   | 1,605,886   | 1,167,098   | 1,547,767  | 1,734,005  |
| 資産の部合計      |            | 51,658,845  | 53,177,267  | 54,410,876  | 54,224,995 | 54,621,636 |
| 負債の部        | 固定負債       | 4,615,802   | 4,344,136   | 4,167,414   | 3,859,800  | 3,564,801  |
|             | 長期借入金      | 3,610,231   | 3,221,307   | 2,831,783   | 2,441,659  | 2,052,535  |
|             | その他の固定負債   | 1,005,571   | 1,122,829   | 1,335,631   | 1,418,141  | 1,512,266  |
|             | 流動負債       | 6,351,375   | 6,620,869   | 6,579,144   | 4,983,511  | 4,238,482  |
|             | 短期借入金      | 436,594     | 390,924     | 390,724     | 391,324    | 390,524    |
|             | その他の流動負債   | 5,914,781   | 6,229,945   | 6,188,420   | 4,592,187  | 3,847,958  |
| 負債の部合計      |            | 10,967,177  | 10,965,005  | 10,746,558  | 8,843,311  | 7,803,283  |
| 純資産の部       | 基本金        | 42,910,432  | 43,910,791  | 44,840,607  | 45,847,566 | 46,784,242 |
|             | 第1号基本金     | 42,392,432  | 43,242,791  | 43,972,607  | 44,779,566 | 45,516,242 |
|             | 第2号基本金     | 0           | 0           | 200,000     | 400,000    | 600,000    |
|             | 第3号基本金     | 3,000       | 3,000       | 3,000       | 3,000      | 3,000      |
|             | 第4号基本金     | 515,000     | 665,000     | 665,000     | 665,000    | 665,000    |
|             | 繰越収支差額     | △ 2,218,764 | △ 1,698,529 | △ 1,176,289 | △ 465,882  | 34,111     |
| 純資産の部合計     |            | 40,691,668  | 42,212,262  | 43,664,318  | 45,381,684 | 46,818,353 |
| 負債及び純資産の部合計 |            | 51,658,845  | 53,177,267  | 54,410,876  | 54,224,995 | 54,621,636 |

#### 概 要

有形固定資産は、建物、構築物の減価償却等により前年比 4 億 7100 万円減少したが、特定資産及びその他の固定資産は、有価証券の購入などにより前年比 34 億 1000 万円増加し、固定資産の合計は前年比 29 億 3900 万円増の 463 億 3500 万円となった。

流動資産は、現金預金の減少などにより前年比 25 億 4300 万円減の 82 億 8700 万円となった。

この結果、資産の部合計は前年比 3 億 9700 万円増の 546 億 2200 万円となった。

負債の部は、前受金の減少及び借入金の返済が計画通り進んだことで、前年比 10 億 4000 万円減の 78 億 300 万円となった。

基本金は、第 1 号基本金を 7 億 3700 万円組み入れ、第 2 号基本金を計画通り 2 億円組み入れたことにより、合計で 9 億 3700 万円増の 467 億 8400 万円となった。

繰越収支差額は、前年比 5 億円増の 3400 万円のプラスとなり、基本金と繰越収支差額の合計である純資産は前年比 14 億 3700 万円増の 468 億 1800 万円となった。